

令和 5 年度

「阿南市と大正大学の連携協力に関する協定」に基づく
地方創生・地域の活性化等に関する研究

成果報告書

令和 6 年 3 月

大正大学

目 次

1. はじめに 5 P
2. 関係人口を核としたシティプロモーション 6 P ～ 17 P
3. 若者の人材育成と U I J ターン促進に向けた情報発信 18 P ～ 37 P
4. SDGs の推進 38 P ～ 43 P
5. 地域循環共生圏の推進 44 P ～ 65 P
6. まとめ 66 P

1. はじめに

「阿南市と大正大学の連携協力に関する協定」に基づく地方創生・地域の活性化等に関する研究事業は、「あなん未来会議」で阿南市が目指すべき中長期的な展望や戦略について提言を行い、未来の担い手である②若者の人材育成を研究の柱に位置づけた。2020 年度からは地域創生にかかる課題解決型の調査研究として、①関係人口を核としたシティプロモーションの検証、2021 年度からは③SDGs の啓発・推進に着手。さらに2022 年度からは、環境と経済・社会のサイクルで地域資源を活用したビジネスを創出する④地域循環共生圏（チャレンジ都市阿南創造事業）が創設されたことに伴い、SDGs や ESG 経営の先導的取組を伴走型でフォローアップする活動が追加された。

本年度（2023 年）はこれらの4 テーマに沿って、①は「阿南とつながる」をコンセプトに昨年から運用を開始した WEB サイト「阿南人」の情報発信コンテンツを質・量とも大幅に強化。そして大正大学実習生が制作した商店街を紹介する SNS リール動画の画期的な拡散力や高校生プロモーターによる投稿、阿南光高校甲子園出場などが幅広いフォロワー増加につながったことを分析した。②は「地域体験学習」の実態と影響を調査する高校生アンケートを実施して分析。また地域イベントに参画する高校生たちの交流支援を行った。③は SDGs 講演会と市民活動を紹介するパンフレットの制作。④は5 つの採択事業者へのヒアリングを重ね、事業目的が達成・継続できるよう伴走型で支援した。

以上の活動に際しては、市民、事業所、市内高校の教員、自治体職員など多くの方々のご協力をいただき、さらに教員や研究員、学生など大正大学の知見を最大限活用した。本報告書では、そのような一連の調査研究活動の報告と考察を記述していく。

2. 関係人口を核としたシティプロモーション

昨年実施した「阿南市内の就労者アンケート」で、Uターンを促進するためには、高校卒業後に進学、就職してからも「阿南」と繋がり続けるための情報発信が重要であることが分かり、その情報ツールとしてWEBサイト「阿南人.com」のデモ版を制作した。

本年は「阿南人.com」の本格的な運用とプロモーター養成などの活動を行い、運用面では大正大学実習生が制作した商店街の店舗を紹介するリール動画をきっかけにSNS発信を強化したことで、アクセス、フォロワー数とも大幅に増加。特に11月以降は「まちマルシェ」「夕暮市場」などのイベント、高校生の活躍、移住交流、阿南光高校の甲子園出場などSNS（インスタグラム・FACEBOOK）で連日のように発信し、フォロワーが大幅に増えた。また、高校生自らが街の話題を取材して発信する「高校生プロモーター」の効果もあり、13～24代の若者のフォロワー数も増えつつある。

どのようなコンテンツを発信したのか、またアクセス数の具体的な推移や傾向・年齢層、今後さらに効果的な発信を行うための提案などを報告する。



阿南人ホームページ



阿南人インスタグラム



阿南人フェイスブック





阿南人 (大正大学・すだっち阿南)

505 件の「いいね!」・フォロワー548人



阿南で活躍する「人」や「企業」、そして豊かな自然や街、イベントやホットな話題を大正大学阿南支局・株式会社すだっち阿南が発信していきます♪

ANAN-JIN
阿南人とは | 阿南人たち | 活動 | 最近の阿南あれこれ | イベントカレンダー | お知らせ

最近の阿南あれこれ
RECENT EVENTS IN ANAN

全ての記事 | 阿南SUPタラッププロジェクト | 商店街活性化 | グランフェットネス阿南 | 高校生ミライ会議 | もっと見る

3月27日・1分
【伊島のアカモク】がステージショッププラザで無料配布されました!
3/27(金) 11:00~ 夜のみステージショッププラザで【伊島のアカモク】が無料配布されました!!

3月25日・1分
阿南光高校ベスト8進出!!!
【第96回選抜高等学校野球大会】阿南光高校がベスト8に進出しました!!

3月25日・1分
ガモール堂に「あなんランチ」が期間限定で登場!! 【大正大学 地...】ガモール堂で「あなんランチ」が提供されました!!

3月21日・1分
高校生プロモーターに名刺を渡しました!
3/21(日) 1分

3月21日・4分
「政治を身近に!」の志で活動を続けてきた、大松谷さんが...
大松谷 幸子 (おまつ とも子)さん POTET(ポテト)ZEXT(ゼット)中学校部活動部員 (第...

3月20日・1分
阿南光が11-4で豊川(愛知)を倒し、初戦突破!! 【第96回選抜...】阿南光高校が豊川高校を倒し、初戦突破しました!!

阿南人 ANAN-JIN

阿南人とは | 阿南人たち | 活動 | もっと見る

15:55
ananjin_sudatch
+
三

791

909

779

965

760

1,199

6,568

970

879

家
検索
+
投稿
プロフィール

ANAN-JIN
阿南人とは | 阿南人たち | 活動 | 最近の阿南あれこれ | イベントカレンダー | お知らせ

イベントカレンダー
EVENT CALENDAR

タイムゾーン: GMT+09:00
2024年3月
今日

25	26	27	28	29	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31	1	2	3	4	5	6

阿南人 ANAN-JIN

阿南人とは | 阿南人たち | 活動 | もっと見る

7



阿南人(大正大学・すだっち阿南)さんは阿南市役所 ... にいます。
 Instagramさんの投稿
 2月24日・徳島県 阿南市・
【大正大学ガモール堂 活竹祭 出店】
 東京・巣鴨から4名の大正大学学生が阿南へ 🌻🌻

無事に活竹祭を終えることができ、
 沢山のお客様に日本全国の特産物をお買い求め頂くことができました... もっと見る



《阿南人.comの考察》

はじめに

4月から本格的に運用を開始した「阿南人.com」だが、大正大学実習生の制作したリール動画の投稿を契機に11月以降は投稿の柱をリール動画へ変更した。主な内容として①阿南の美しい景色/イベントの様子②高校生プロモーターの制作動画③阿南の事業所/人物の紹介④阿南光高校の甲子園など、様々なコンテンツに焦点を当てて発信し、アクセス数が急激に伸びた。そこで、リール動画の投稿の前後で、Instagram/Facebookのフォロワーとリーチ数がどう変化したのかを分析してみたい。そして阿南に関係する【いま・ひと・まち】をメインに約半年間発信を続けた結果から、SNSにおいてリール動画がどのような拡散力を持っているのか、Meta Businessのインサイトを参考に考察していく。

- ・2023年4月1日～10月31日 (実習生制作動画投稿前)
- ・2023年11月1日～3月31日(2024) (実習生制作動画投稿後)

上記の期間で ①フォロワー数 ②リーチ数の変化をリサーチする。変化があった時期には、どのような投稿をどのように発信していたのかを導き出す。そして、フォロワーの居住地と年齢層から今後の課題を見つけていく。



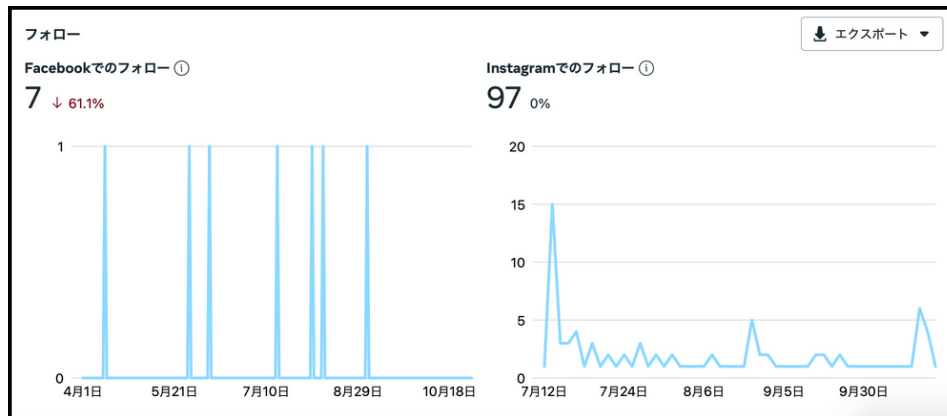
- リーチ数とフォロワー数の変化(2023年4月1日～10月31日)
- リーチ数とフォロワー数の変化(2023年11月1日～3月31日)
- リーチ数とフォロワー数の増加要因
- フォロワーの年齢層
- フォロワー年齢層の変化
- まとめ
- 課題とこれから

※リーチとは・・・投稿に訪れた人の数。同じユーザーがあなたの投稿を2回見た場合、インプレッションは2、リーチは1となります。

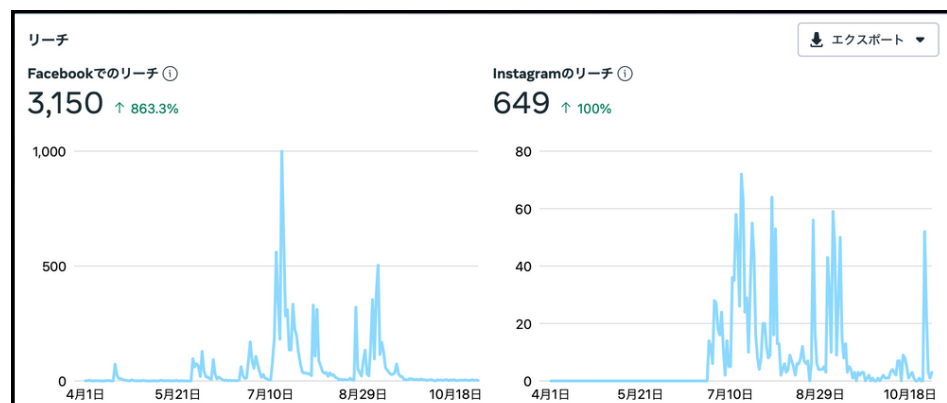
《2023年4月1日～10月31日》

(動画投稿前)

▼フォロワー数



▼リーチ数



《リーチ数とフォロワー数の変化》

4月から10月まではフォロワー・リーチ数共に大きな伸びは無く、facebookの方がリーチ数が高い。

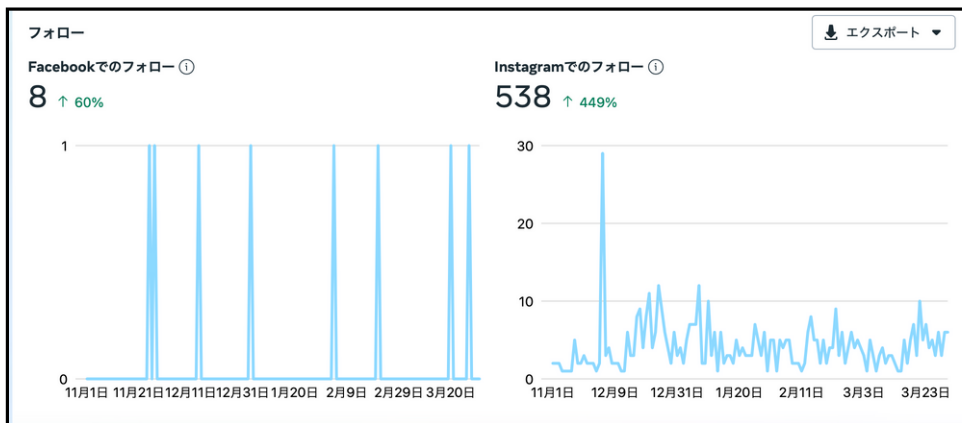
フォロワー数：Instagram **97** 人増加・Facebook **7** 人増加。

リーチ数：Instagram **649** 獲得・Facebook **3,150** 獲得。

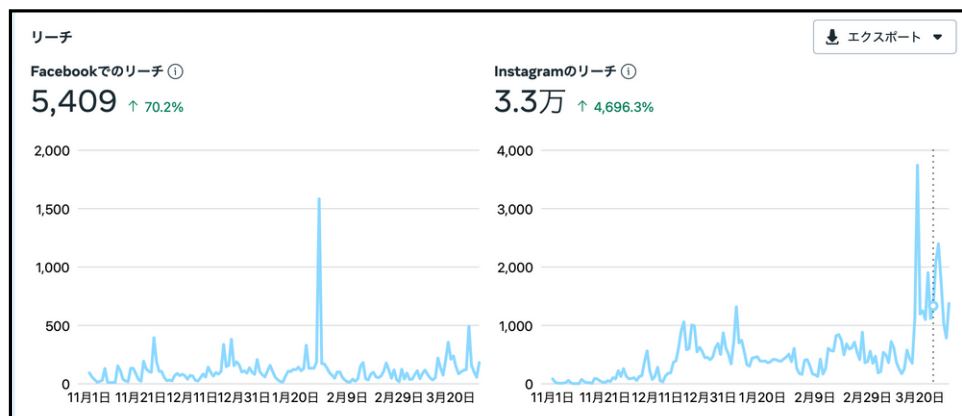
《2023年11月1日～3月31日》

(動画投稿後)

▼フォロワー数



▼リーチ数



《リーチ数とフォロワー数の変化》

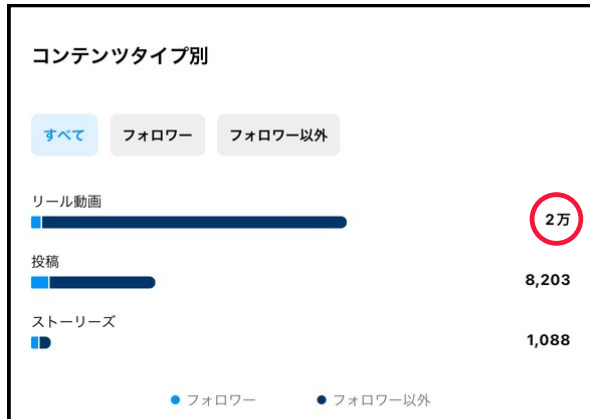
フォロワー数：Instagram **538** 人増加・Facebook **8** 人増加。

リーチ数：Instagram **33,000** 獲得・Facebook **5,409** 獲得。

11月以降は、大正大学実習生の制作動画を中心に**リール動画**でSNS更新を続けた。その結果、**フォロワー数・リーチ数が共に、大幅に増加**。(12月15日～大正大学動画更新)

《リーチ・フォロワー数の増加要因》

▼なぜフォロワーとリーチ数を獲得することができたのか！？



阿南人アカウントリーチ数内訳 (2024年4月地点)

リーチ数ランキング



- ①阿南光高校甲子園観戦(1回戦現地の様子)
- ②阿南光高校甲子園観戦(1回戦現地の様子)
- ③夕暮市場 (2月) の様子
- ④楠根・熊谷桜まつりの様子
- ⑤名刺交換の様子(高校生プロモーター)

阿南人アカウント総合リーチ数
(2024年4月地点)

高いリーチを獲得した投稿は、全てが**リール動画**である。これはInstagramアルゴリズム（リール動画が拡散する仕組み）に沿った結果で、**リール動画はリーチ数・フォロワー数の増加に大いに影響するといえる。**

▼トップコンテンツは甲子園（阿南光）



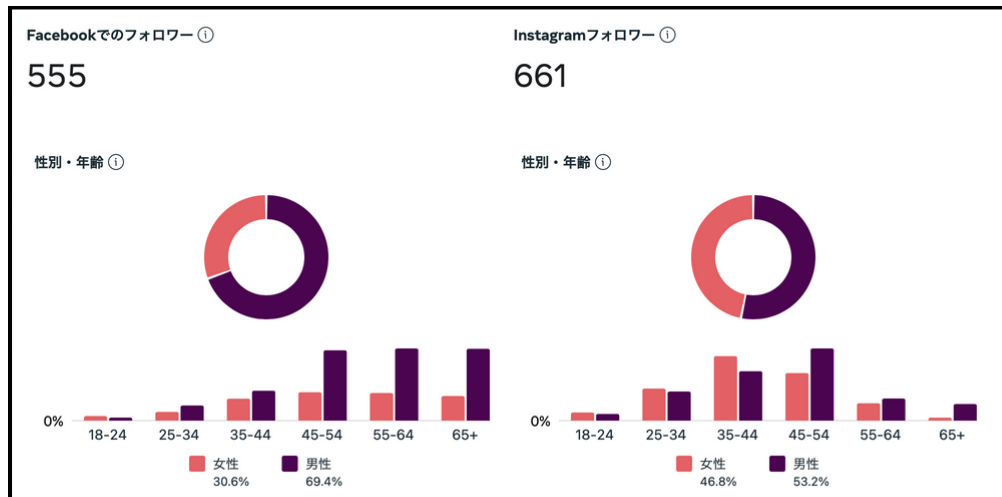
甲子園のリール動画は現在も再生数が伸び続けており、もうすぐ1万再生に届きそうである。また、再生数が多いだけではなく【保存数】が「22」で、最多保存数を記録した。

保存数が多い動画は必然的に「おすすめ欄」に掲載される場合が多い。そのため、新規ユーザーにもリーチすることができる。

「また見たい！」と思ってもらえる動画を作ることが多くのリーチを獲得する秘訣である。

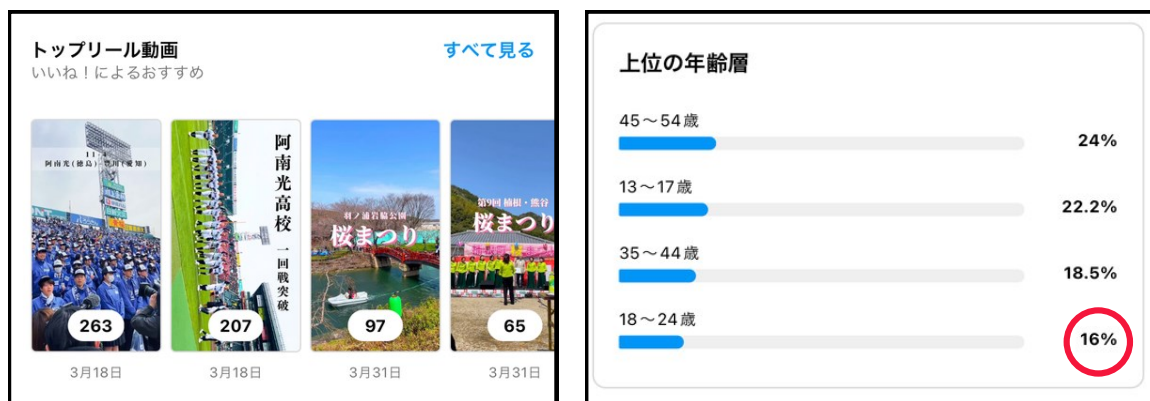
《フォロワーの年齢層》

▼3月末



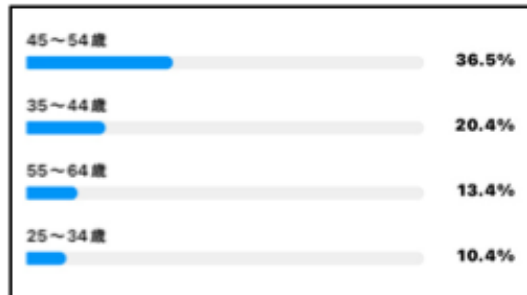
上記の表を見ると、35-60歳以上のフォロワーが半数を占めていることがわかる。facebookは特に年齢層が高く、男性の比率も高い。また、18-24歳の比率は最も低く、まだまだアプローチできる年齢層があるということがわかる。**若年層をゲットできる投稿をしていくことが**これからの課題であり、SNSに敏感な若年層を獲得することができれば、まだまだ阿南人.comは成長していくことができる。

そして、少しずつであるが3月に投稿した「阿南光高校甲子園」「高校生プロモーターの動画」は18-24歳の**リーチ16%**を獲得することができた。今後も高校生にスポットを当てた動画作りやネタを探すことは必要不可欠であり、キーマンとなる存在である。



《フォロワー年齢層の変化》

▼11月



▼3月末



○若年層へのアプローチ

11月時点のフォロワー年齢層(上左の表)は**13~24歳**の表示がなく、おそらく**0%**だったと思われる。3月末のフォロワー年齢層(上右の表)を見ると、**13~24歳は計10.1%に増加した。**

大きくリーチを獲得した動画↓

- ①阿南光高校甲子園の試合情報や観戦の様子
- ②高校生プロモーター講座・プロモーター会議・プロモーターの制作動画

上記2つのリール動画をきっかけに**若者のフォロワーが少しずつ増え、そしてそれが、全体的なリーチ数・フォロワーの増加に繋がった。**

▼11月～3月(リーチ数)



阿南光甲子園・高校生プロモーター(3月19日・20日)

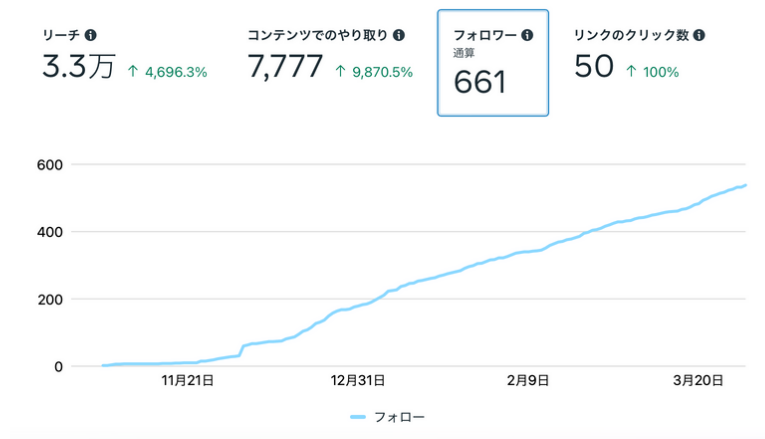
大正大学実習生制作動画投稿開始！(12月15日)

《まとめ》

11月以降は「リール動画」といわれる、縦型で全画面に表示されるショート動画をメインに発信を始めたところ、フォロワー(新規538人)とリーチ(計3.3万)を獲得することができた(2024年3月時点)。

大正大学の実習生が制作した動画は、2023年12月15日から毎日1投稿(計21本)更新を続けた。実習生が作成した動画も、多くのリーチと再生数を獲得。1番多く再生された動画は6773回の再生数を獲得した(2024.3月時点)。

パフォーマンス



上記の表を見ると、リール動画の投稿を始めた11/12月あたりから、右肩上がりにフォロワー数が伸びていることがわかる。これはMeta Businessのアルゴリズムに則った結果である。おすすめ欄や検索欄に優先して表示される投稿はリール動画であり、再生数・保存数が多い動画が優先的におすすめに掲載される。阿南人.comのアカウントもこのサイクルに則った結果である。

その後、3月には「阿南光高校野球部初戦突破！応援席の様子」をまとめたリール動画ではアカウント史上最多の「263」いいねを獲得。アプリを開ける度に「いいね」の通知があり、多くの人へリール動画が届いたと思われる。また、保存数が多かったことから「もう一度みたい！」と思える投稿内容だったことがわかる。リーチ年齢層を見ると、16%が若年層。プロフィールへのアクティビティも144%上昇。LINKに記載があるHPやYoutubeに繋がる外部リンクへのタップが増えた。そのため、近頃は阿南人(HP)の記事も閲覧が多くなってきた(1番多いのは大松谷さんの記事)。SNS/HPの更新を続けることは、確実に視聴者を増やすことに繋がっていると言える。

《課題とこれから》

フォロワーの居住地から見るこれからの展望

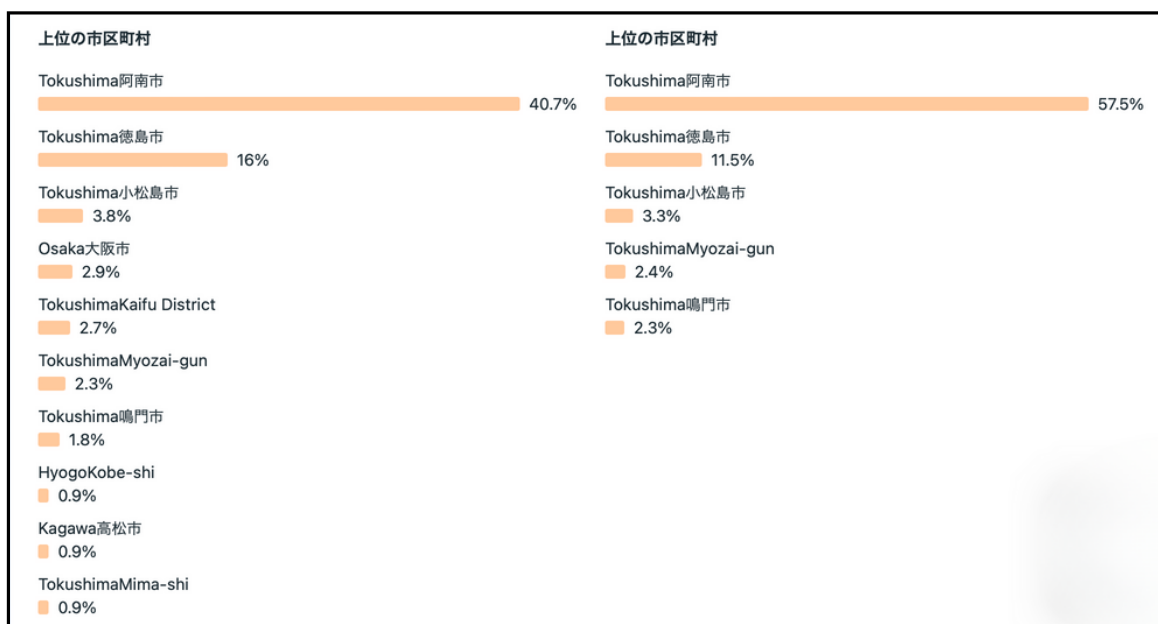
- ▶市外/県外のフォロワーを獲得し、情報を都心部(郊外)にも拡散できる仕組み作り
- ▶若年層のフォロワーを獲得、地元愛着を深める活動や拡散の速度を上げていく仕組み作り

下記の表(左facebook/右Instagramのフォロワー居住地)を見ると、阿南市内在住のフォロワーが全体の約6割を占めている。今後は、**徳島県外のフォロワー**と**若年層のフォロワー**を獲得することが重要なミッションである。

県外のフォロワーを獲得する為には、都心部(東京)にいる阿南市出身者とコンタクトを取り、SNS機能を上手く利用(リミックス/Repost機能)して発信を行っていく。(例:東京徳島飲食会のアカウントを参考に)「①阿南で起きている出来事を都心部(東京)へ届ける仕組み②都心部(東京)で活躍する阿南人の姿を阿南市に届ける仕組み。」を目指す。東京在住のプロモーターを発掘することは、都心と地方を繋ぐ大きなカギとなる。阿南を離れ、生活する人に故郷で起きている出来事をリアルタイムに伝え続けていきたい。そのためには、県外で活躍する阿南市出身者たちと肩を組み、プロモーターとなって共に活動することが必要である。

さらに、SNSに敏感な若年層のフォロワーを増やしていくこともミッションであり、阿南の魅力発信に大きな影響を与える。地元に着愛を持った高校生プロモーターを増やしていくことはU/Iターン者の増加や関係人口の創出にも必ず繋がってくるだろう。学生たちが進学や就職で阿南を離れても「阿南人.com」が故郷と自分を繋げてくれるきっかけとなる。

実際に、今春から東京へ進学した大松谷さんには、東京でプロモーター活動をしてもらうなどの可能性を広げていきたい。その他にも、東京には「阿南/徳島」にゆかりのある人物や事業所/飲食店が数多く存在する。SNSを利用し、「その場・その人」と交流を図り、お互いがWinWinになる情報発信を！そして、その取り組みから都心と阿南を繋げていくことは必ずできる。



↑阿南人.comのフォロワー居住地内訳 (2024年3月地点)

（全体的な考察と今後）

今回の「阿南人.com」「SNS」発信を通じて、気づきや新たな提案が見えてきた。気づきの一つはリール動画の拡散力で、写真や文章にこだわっていた従来の見せ方・伝え方の常識が見事に覆された。誰もがスマホで簡単に、1～3分という短い時間で音楽に合わせてさまざまな場面を楽しめて、興味を持てばハッシュタグからさらに詳しい情報が得られる。また、投稿したイベント関係者や事業所から感謝のメッセージをいただくこともあり、活動している人のやりがいや情報共有にも役立っていると感じた。また、SNSで拡散した動画や記事を阿南人.comのホームページでは保存版として掲載することで、流されがちなSNS情報の図書館機能を持たせている。

新たな提案は、分析の「課題とこれから」で示したように、若者や県外の人へのフォロワーをさらに増やすための方法で、公式LINE、Note、東京・阿南ふるさと会FACEBOOKの活用、東京で活躍する人を紹介する「阿南人」の東京版、県外在住プロモーター任用など、いろんなアイデアの可能性を検討していきたい。

3. 若者の人材育成と U I J ターン促進に向けた情報発信

① 高校生アンケート

地域構想研究所の中島ゆき主任研究員と連携して、高校の地域体験学習がふるさとへの愛着や将来の地元回帰に好影響を与えるという仮説のもと、市内5校を対象にアンケートを実施。高校2.3年生、専攻科・高専4.5年生の701人から回答を得た。

その結果、地域の体験学習に参加している生徒ほど、地域への愛着や関心が高い傾向にあることが分かった。高校生への個別ヒアリング結果も合わせて、その集計・分析の結果を以下に報告する。

地域と進路に関する アンケート調査のお願い

阿南市役所ふるさと未来課
大正大学地域構想研究所阿南支局



あなんまちマルシェ 高校生企画チーム

阿南市の高校生へ、あなたの地域とのつながりや就業に関する意識を教えてください。

阿南市では、市内の高校生全員の意識や考えに耳を傾けたいと思っています。

授業の一環として考えることも増えてきた地域との関わり、そして将来の職業や生活に対する意識・関心そうしたものを知ることで、皆さんにとってのより良い阿南市を一緒に創っていきたいと考えています。

▶ 皆さんの声が、阿南市の政策やまちづくりの形成に繋がりますので、是非、自由なご意見を出してください！
(今回のアンケートは進路を控えた2年・3年生及び高専/専攻科4・5年生を対象としています)

【調査の方法】

- 所要時間: 約10～15分
- 回答方法: 右記のQRコードまたはURLを使用し回答してください。
アンケートURL | <https://enquete.cc/q/StudentSurvey>
- 報告書: 集計結果は、個人が特定できない形で市のホームページにて公表します。

▼こちらから回答



若者の地域貢献意識や 職業選択に影響を与える 地域体験学習とは

大正大学 地域構想研究所

地域マーケティングPJチーム

支局：すだっち阿南



報告：令和6年3月末

調査の概要 & 構成

調査の概要

アンケート調査名：地域学習と進路に関するアンケート
調査対象：阿南市の高校に通う高校生（2、3年生）
調査期間：2023年12月～2024年1月末
調査方法：教室にて案内配布、その後オンラインフォームにて回答

本冊子の構成

【回答者の基本属性】

性別／学年／居住地域／カテゴリー分類方法
地域体験学習の参加経験状況によるカテゴリー分類

【地域に対する理解・意識】

- ・阿南市のイメージ
- ・阿南市への興味・愛着
- ・阿南市に愛着を感じる理由
- ・地域の大人との関係性 | よく行くことがある場所

【地域体験学習について】

- ・地域体験学習の取り組み意識
- ・体験したことがある地域体験学習
- ・地域体験学習は地域への興味・関心を高めるきっかけになったか
- ・地域への興味・関心を最も高めるきっかけになった地域体験学習
- ・地域体験学習の効果について
- ・今後、体験したいと思う地域体験学習
- ・阿南市の祭りやイベントに企画や運営側としての参画意向

【職業選択・卒業後の進路に関する意識】

- ・魅力的と思う業種
- ・仕事を選択する際に重視すること
- ・卒業後の希望進路
- ・就職先の希望地域
- ・阿南市をよくなる活動への参加意向
- ・帰省した際の祭りやイベントへの参加意向
- ・阿南に関する情報発信サイトにあったら
良いと思う記事
- ・阿南に関する情報発信サイトへの関わり度合い

はじめに

背景

地域体験学習は、高校生に地域の文化、歴史、社会課題を直接体感し、学びの機会を提供します。これは、学生の視野を広げ、自身のルーツやアイデンティティを理解する助けとなり、社会貢献の意識を高める役割を果たします。特に最近の研究では、高校時代の地域体験が、生徒の将来の地域への回帰に影響を与えることが明らかになりました。これは、地域社会とのつながりが、生徒が将来その地域に戻り（Uターンに限らずJターンや関係人口としても）、貢献する意欲に直結することを示しています。

目的

多くの地方自治体と同じく、労働力の減少が予測される阿南市では、高校生の地域体験学習の重要性が増しています。本調査の最終目的は、地域に根ざした教育を通じて、若者が地域に関心を持ち、将来的に地域で活躍する可能性が高まること、さらに地域と長期的な関わりを持つ若者が増えることです。その実現のために、どのような地域学習が効果的であるのか、どのような学習内容が求められているのかを明らかにすることが、本調査の主な目的となります。

3

ダイジェスト一覧

回答者属性	性別	男性 50.6%、女性 46.8%
	学年	高校2年生 48.4%、3年生 27%、高専・専攻科4年生 12.1%、5年生 12.1%
	居住地域	阿南市内居住 68.6%、阿南市外居住 29.7%
地域に対する理解・意識	阿南市のイメージ	高校生の阿南イメージTOP3は「海・山・川などの自然が豊か」、「治安が良く、安全で安心して暮らせる」、「豊かな自然とまちが、バランスよく調和している」
	阿南市への興味・愛着	阿南市への興味は4割程度が持っており、地域主催参加は阿南市への興味がより強い傾向に
	阿南市に愛着を感じる理由	阿南市への愛着は約6割が感じており、地域主催参加は阿南への愛着が強い傾向に
	地域の大人との関係性	学校には「相談できる先生」、「相談できる部活動の先生」が居て、学校外では「相談できる塾や習い事などの先生」が居る
	よく行くことがある場所	よく行くことがある場所は、放課後【平日】は「カフェ・飲食店等／勉強が出来る場所」、休日は「カフェ・飲食店等／大型商業施設・ショッピングモール」
地域体験学習について	地域体験学習の取り組み意識	地域主催の地域体験学習参加経験者は、地域主催、学校主催の地域体験学習に「熱心に取り組んでいる」
	体験したことがある地域体験学習	体験が最も多い地域体験学習は「阿南市での奉仕活動」で、地域主催の地域体験学習の参加経験者は、より顕著な傾向に
	地域への興味・関心を高めるきっかけになったか	地域体験学習は地域への興味・関心を高めるきっかけとなり、地域主催の地域体験学習は、よりきっかけになりやすい
	地域への興味・関心を最も高めるきっかけになった地域体験学習	興味・関心を高めるきっかけとなる活動は「阿南市での奉仕活動」
	地域体験学習の効果について	地域主催の地域体験学習の参加経験者は、地域体験学習の体験に対して前向きな傾向に

4

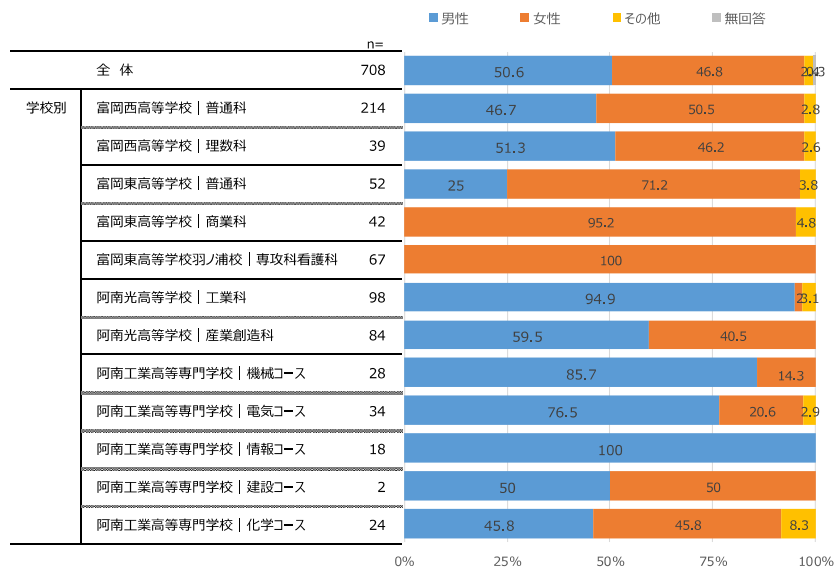
ダイジェスト一覧

地域体験学習について	今後、体験したいと思う地域体験学習	体験したいと思う地域体験学習は「阿南市での奉仕活動」、「阿南市の自然環境について学ぶ活動」
	阿南市の祭りやイベントに企画や運営側としての参画意向	地域主催の地域体験学習の参加経験者は、祭りやイベントなどの運営側としての参画意向が高い傾向に
職業選択・卒業後の進路に関する意識	魅力的と思う業種	高校生が魅力的と思う業種は「医療業」、「公務」、「製造業」
	仕事を選択する際に重視すること	地域主催の地域体験学習の参加経験者は「地元」で働くことに対する意識や将来における起業意識が高い傾向に
	卒業後の希望進路	卒業後の希望進路は、「進学」44%、「就職」48%
	就職先の希望地域	就職先の希望地域で「阿南市内」を多く挙げたのは「就職」希望進路者 進学希望進路者の将来の就職先として最も多く挙げられたのは「徳島県内」
	阿南市をよくなる活動への参加意向 帰省した際の祭りやイベントへの参加意向	地域主催の地域体験学習の参加経験者は、阿南市をよくなる活動や市外居住後の阿南市内イベントへの参加意向が高く、未来における阿南の存在感が高い
	阿南に関する情報発信サイトにあったら良いと思う記事	あったら良いと思う情報は、阿南市のイベントやお店や町の様子
	阿南に関する情報発信サイトへの関わり度合い	地域主催の地域体験学習の参加経験者は、阿南市に関する情報発信への関わり意識が高い

回答者の 基本属性

回答者属性

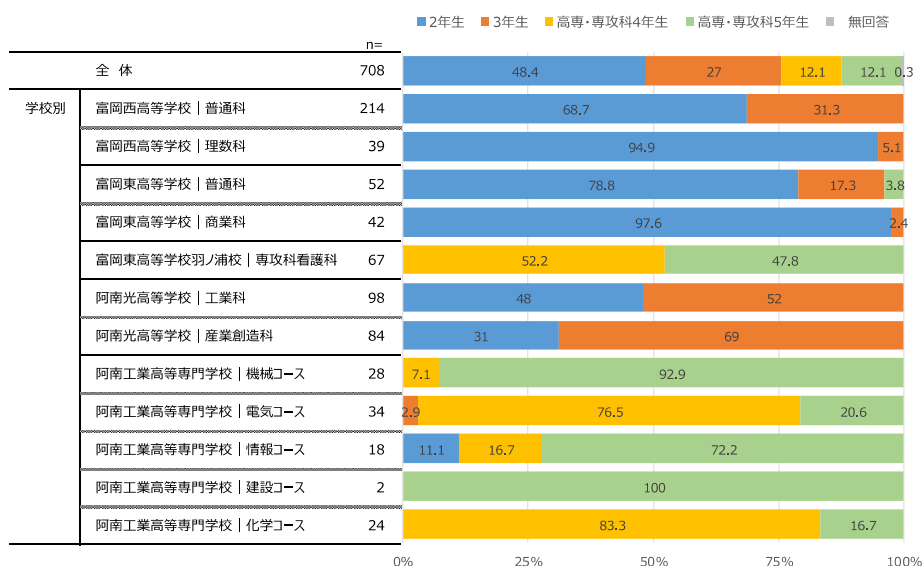
< 性別 >



7

回答者属性

< 学年 >

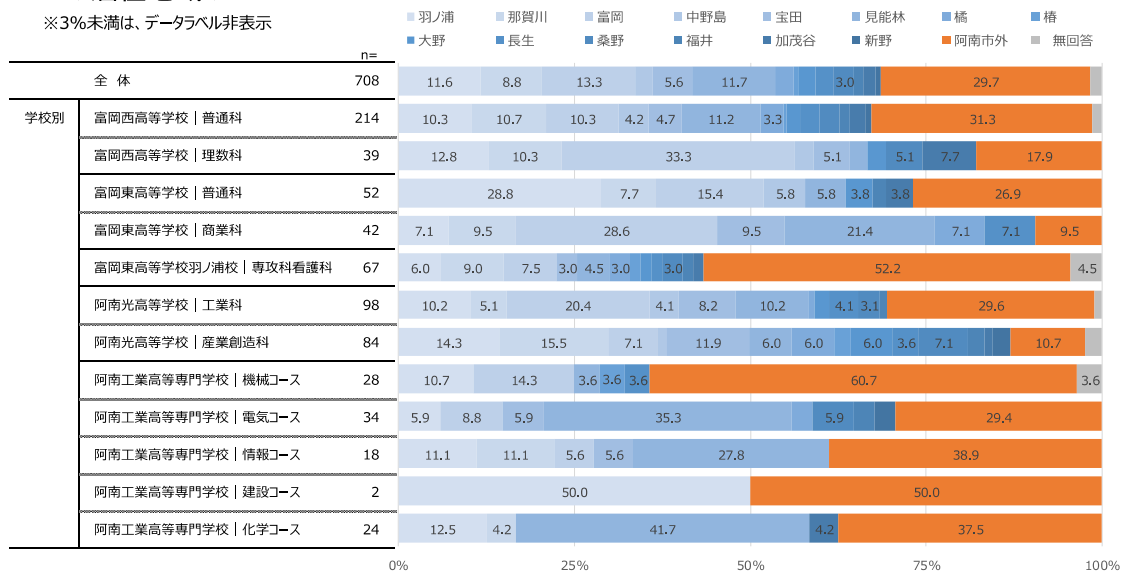


8

回答者属性

< 居住地域 >

※3%未満は、データヘルプ非表示



9

回答者属性

< カテゴリー分類方法 >

地域体験学習の参加経験状況による傾向の確認を目的に、現在・過去問わず

地域体験学習の参加経験を条件に下表の3カテゴリーで分類を実施

※本レポートでは下記カテゴリー分類を「カテゴリー別」と表記する

カテゴリー名称	【学校の授業以外で自主的な 地域体験学習に参加	【学校の授業の一部として実施 している】地域体験学習に参加
地域主催参加 →	参加経験 がある (○) 参加経験 がある (○)	参加経験 がある (○) 参加経験 がない (×)
学校主催のみ参加 →	参加経験 がない (×)	参加経験 がある (○)
参加なし	参加経験 がない (×)	参加経験 がない (×)

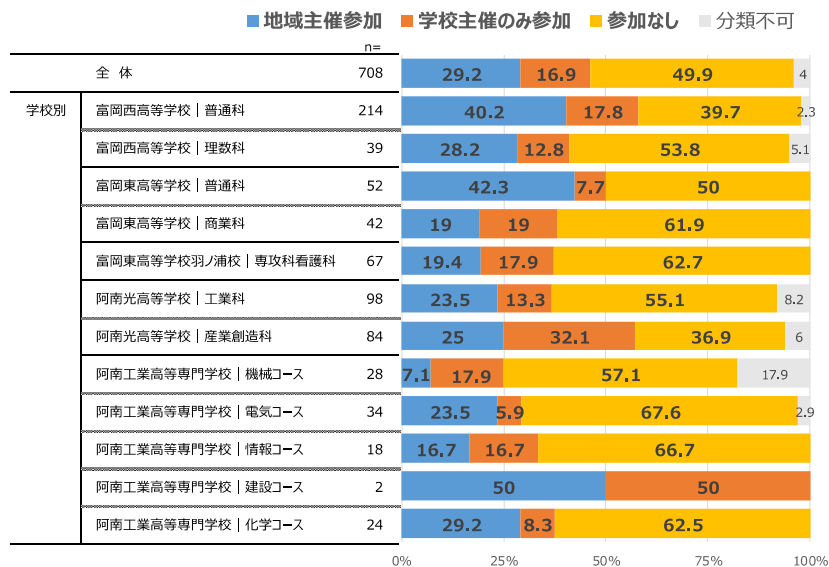
注) 上記分類に必要な設問が無回答の場合は「分類不可」となり、上記のカテゴリーには分類されていない

分類結果は次ページ

10

回答者属性

< 地域体験学習の参加経験状況によるカテゴリー分類 >



11

地域体験学習経験の有無からみる
【地域に対する理解・意識】

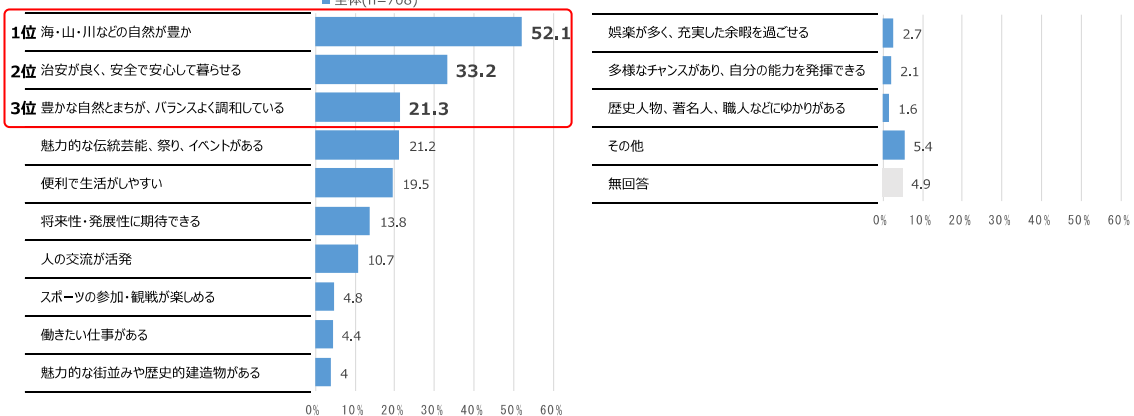
12

阿南市のイメージ

■ 高校生の阿南イメージTOP3は「海・山・川などの自然が豊か」、「治安が良く、安全で安心して暮らせる」、「豊かな自然とまちが、バランスよく調和している」

カテゴリー別での、阿南イメージの差異は見られなかった。

阿南市のイメージTOP10



13

阿南市への興味・愛着

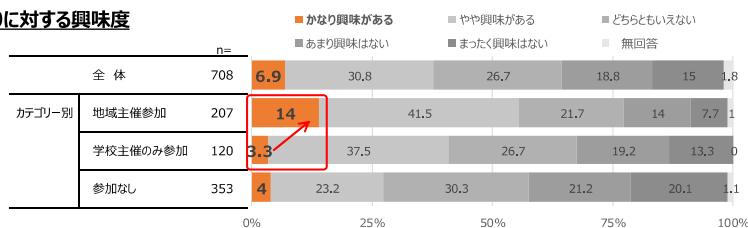
■ 阿南市への興味は4割程度が持っており、地域主催参加は阿南市への興味がより強い傾向に

まちづくりに対する興味度は、全体では「興味がある（かなり興味がある＋やや興味がある）」が約4割となった。カテゴリー別では地域主催参加は全体結果や学校主催のみ参加の結果と比較して「かなり興味がある」が高く、阿南市への興味が強い傾向となった。

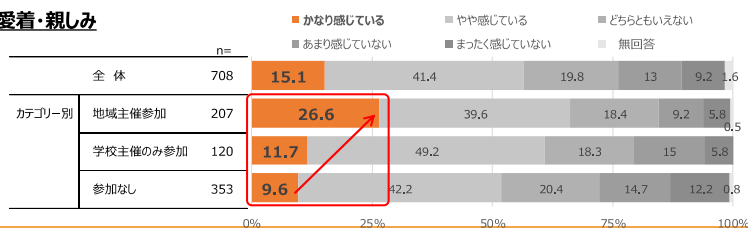
■ 阿南市への愛着は約6割が感じており、地域主催参加は阿南への愛着が強い傾向に

全阿南市に対する愛着・親しみは、全体では「感じている（かなり感じている＋やや感じている）」が約6割となった。カテゴリー別では地域主催参加は「かなり感じている」が最も高く、他と比較すると2倍以上となっている。

阿南市のまちづくりに対する興味度



阿南市に対する愛着・親しみ



14

阿南市に愛着を感じる理由

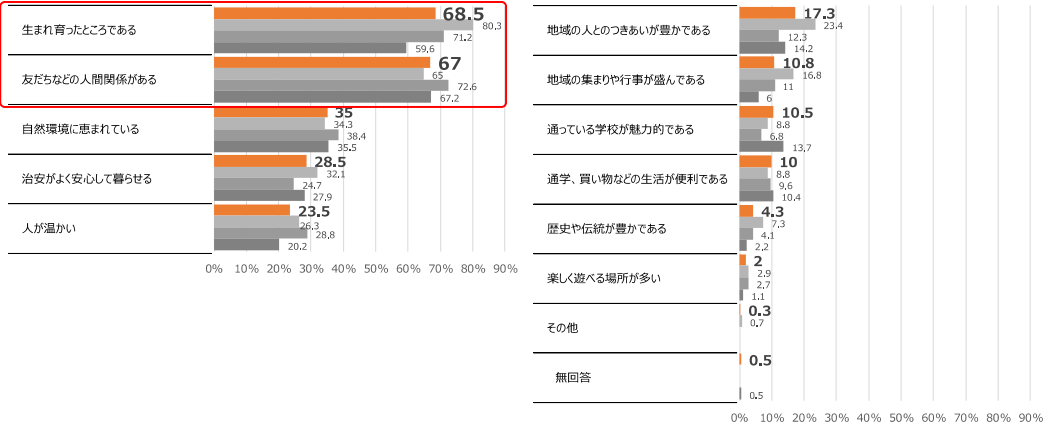
■ 愛着を感じる2大理由は「生まれ育ったところだから」「友だちなどの人間関係があるから」

全体での愛着を感じる理由1位は「生まれ育ったところである」、2位は「友だちなどの人間関係がある」で、他の理由と比較すると顕著に高い結果となり、2大理由となった。カテゴリー別では愛着を感じる理由の差異は見られなかった。

阿南市に愛着を感じる理由TOP5

※阿南市に対する愛着・親しみで「かなり感じている」、「やや感じている」の選択者が回答

■ 全体(n=400) ■ 地域主催参加(n=137) ■ 学校主催のみ参加(n=73) ■ 参加なし(n=183)



15

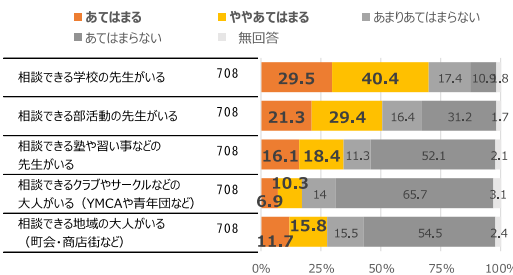
地域の大人との関係性 | よく行くことがある場所

■ 学校には「相談できる先生」、「相談できる部活動の先生」が居て、学校外では「相談できる塾や習い事などの先生」が居る

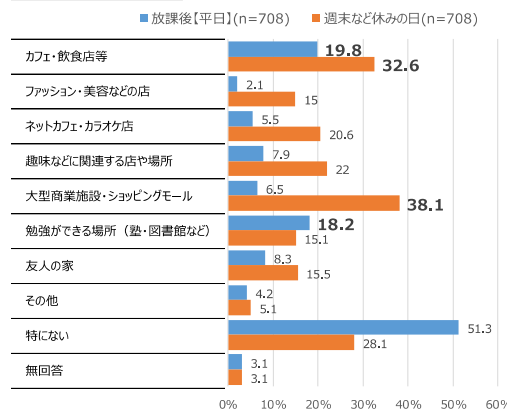
地域の大人との関係性で「あてはまる（あてはまる+ややあてはまる）」が高い傾向となったのは、「相談できる学校の先生がいる」、「相談できる部活動の先生がいる」で、それらに次いで高いのは「相談できる塾や習い事などの先生がいる」となった。

■ よく行くことがある場所は、放課後【平日】は「カフェ・飲食店等／勉強が出来る場所」、休日は「カフェ・飲食店等／大型商業施設・ショッピングモール」

地域の大人との関係性



よく行くことがある場所

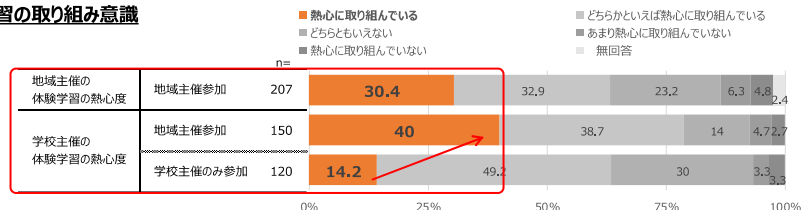


16

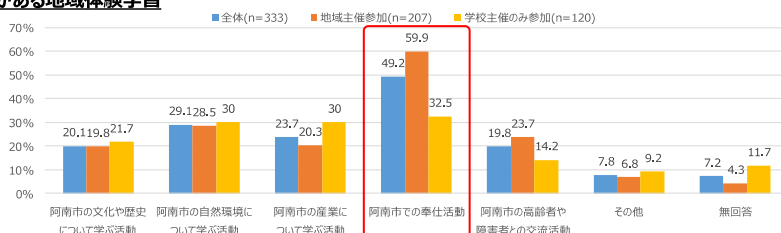
地域体験学習の取り組み意識 体験したことがある地域体験学習

- **地域主催の地域体験学習参加経験者は、地域主催、学校主催の地域体験学習に「熱心に取り組んでいる」**
地域主催の地域体験学習の取り組み意識を見ると、地域主催参加は地域主催、学校主催の地域体験学習のいずれも「熱心に取り組んでいる」が学校主催のみ参加より高い傾向で、地域体験学習への取り組み意識が高い傾向が見て取れる。
- **体験が最も多い地域体験学習は「阿南市での奉仕活動」で、地域主催参加はより顕著に**
体験したことがある地域体験学習は、全体では「阿南市での奉仕活動」が最も多く、他の活動が2～3割に対し、「奉仕活動」は5割程度の結果となった。

地域体験学習の取り組み意識



体験したことがある地域体験学習

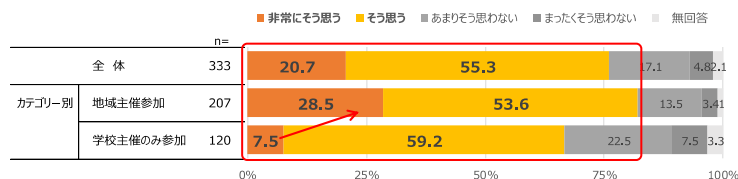


17

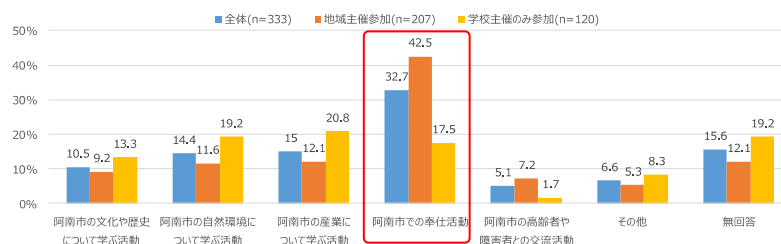
地域体験学習は地域への興味・関心を高めるきっかけになったか 地域への興味・関心を最も高めるきっかけになった地域体験学習

- **地域体験学習は地域への興味・関心を高めるきっかけとなり、地域主催の地域体験学習は、よりきっかけになりやすい**
地域体験学習が地域への興味・関心を高めるきっかけになったかでは、「そう思う（非常にそう思う+そう思う）」が7.5割超となり、地域体験学習が地域への興味・関心を高めるきっかけになっている状況が見て取れる。また、カテゴリー別では、地域主催参加は「非常にそう思う」が約3割で学校主催のみ参加と比較すると顕著に高い傾向で、地域主催の地域体験学習は、より地域への興味・関心を高めるきっかけになりやすいという結果となった。
- **興味・関心を高めるきっかけとなる活動は「阿南市での奉仕活動」**

地域体験学習は地域への興味・関心を高めるきっかけになったか



地域への興味・関心を最も高めるきっかけになった地域体験学習



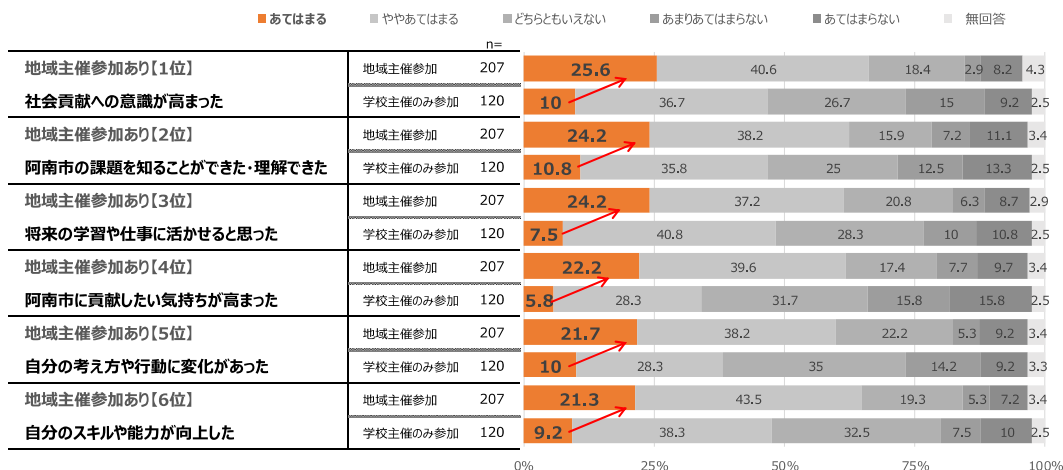
18

地域体験学習の体験効果について

■地域主催の地域体験学習の参加経験者は、地域体験学習の体験に対して前向きな傾向に

地域体験学習の体験に対する意識では、地域主催参加の「あてはまる」が高い上位6項目について、学校主催のみ参加と比較すると上位6項目すべてにおいて、地域主催参加の「あてはまる」が高い傾向となった。上位6項目すべて「あてはまる」が地域主催参加は学校主催のみ参加より2倍以上高い結果となっており、地域体験学習の体験に対して、前向きな意識が見て取れる。

地域体験学習の体験であてはまるもの



19

今後、体験したいと思う地域体験学習 阿南市の祭りやイベントに企画や運営側としての参画意向

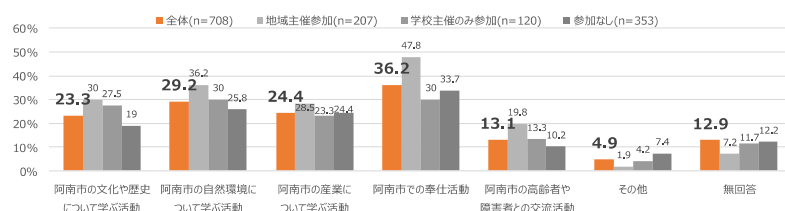
■体験したいと思う地域体験学習は「阿南市での奉仕活動」、「阿南市の自然環境について学ぶ活動」

今後、体験したいと思う地域体験学習で最も高いのは「阿南市での奉仕活動」で、次いで「阿南市の自然環境について学ぶ活動」となった。

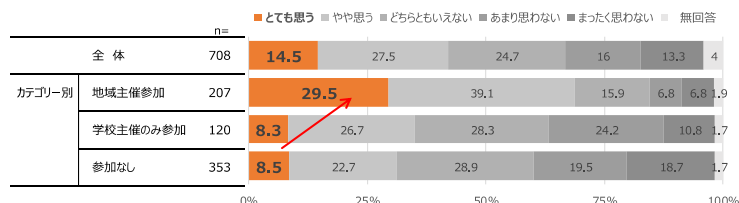
■地域主催の地域体験学習の参加経験者は、祭りやイベントなどの運営側としての参画意向が高い傾向に

阿南市の祭りやイベントなどの運営側としての参画意向を見ると、地域主催参加は「とても思う」が顕著に高い傾向となった。他カテゴリーと比較すると3倍以上「とても思う」が高い結果で、主体的に阿南市での祭りやイベントなどに関わりたいと思っている意識が見て取れる。

今後、体験したいと思う地域体験学習



阿南市の祭りやイベントに企画や運営側としての参画意向



20

職業選択・卒業後の進路に関する意識

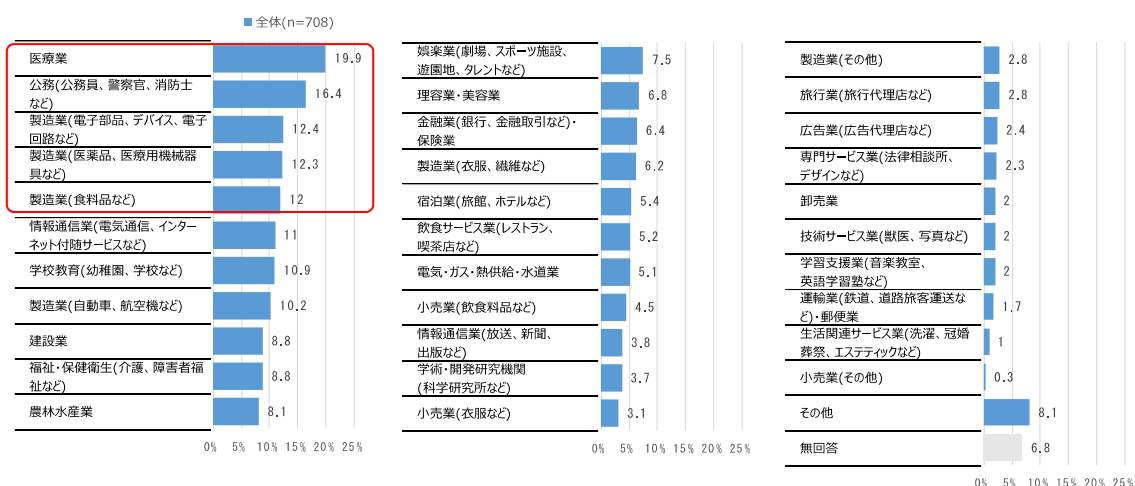
21

魅力的と思う業種

■高校生が魅力的と思う業種は「医療業」、「公務」、「製造業」

魅力的と思う業種TOP5は、1位「医療業」、2位「公務（公務員、警察官、消防士など）」、3位「製造業（電子部品、デバイス、電子回路など）」、4位「製造業（医薬品、医療用器械器具など）」、5位「製造業（食料品など）」となり、3～5位の「製造業」はほぼ同率の結果となっている。

魅力的と思う業種

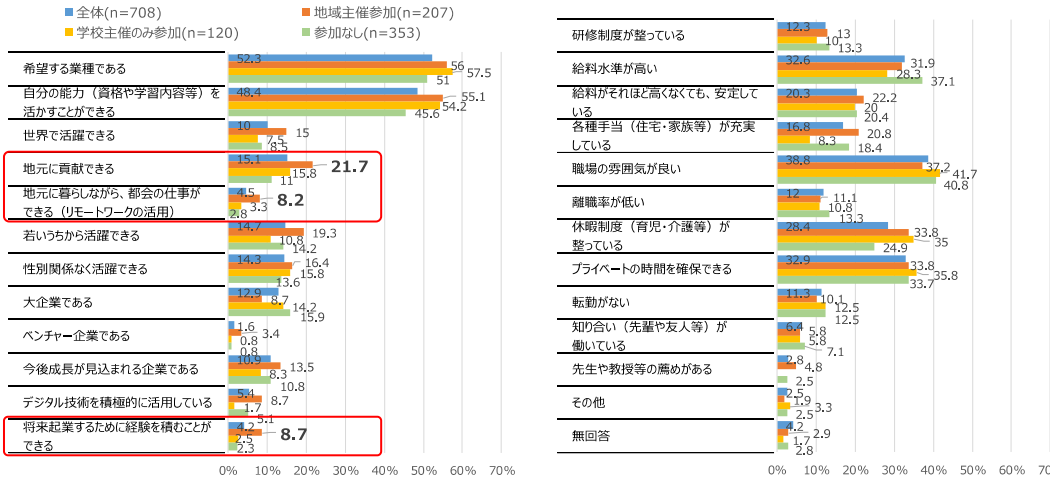


22

仕事を選択する際に重視すること

■ 地域主催の地域体験学習の参加経験者は「地元」で働くことに対する意識や将来における起業意識が高い傾向に
地域主催参加の仕事を選択する際に重視することを見ると、「地元で貢献できる」、「地元で暮らしながら、都会の仕事が出来る（リモートワークの活用）」、「将来起業するために経験を積むことができる」が他より高い傾向となっており、地元で働くことに対する意識や将来における起業意識が高い傾向が見て取れる。

仕事を選択する際に重視すること

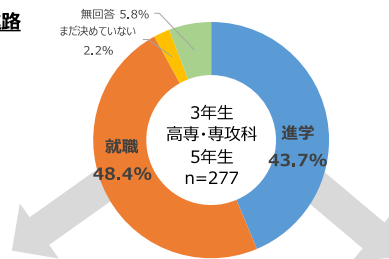


23

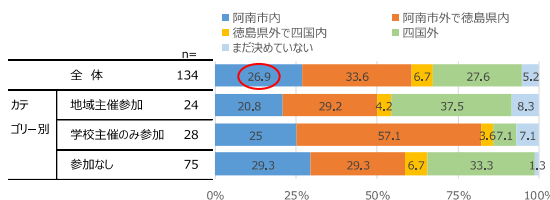
卒業後の希望進路 | 就職先の希望地域

- 卒業後の希望進路は、「進学」44%、「就職」48%
- 就職先の希望地域で「阿南市内」を多く挙げたのは「就職」希望進路者
- 進学希望進路者の将来の就職先として最も多く挙げられたのは「徳島県内」

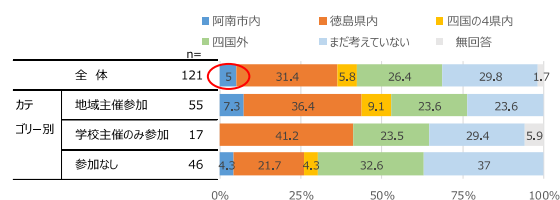
卒業後の希望進路



就職先の希望地域



進学先の大学等卒業後の就職先の希望地域



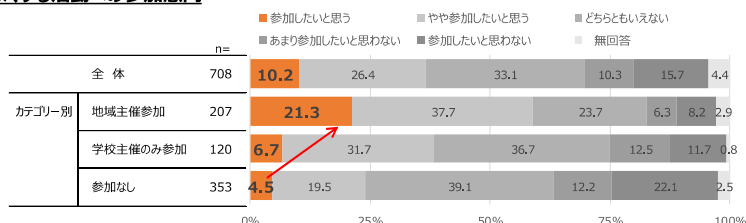
24

阿南市をよくなる活動への参加意向 帰省した際の祭りやイベントへの参加意向

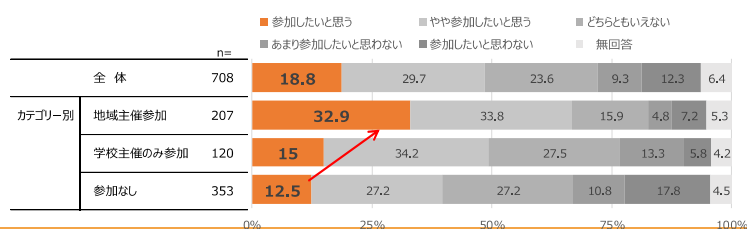
■地域主催の地域体験学習の参加経験者は、阿南市をよくなる活動や市外居住後の阿南市内イベントへの参加意向が高く、未来における阿南の存在感が高い

将来、阿南市をよくなる活動への参加意向では、地域主催参加が「参加したいと思う」が他より顕著に高い。また、卒業後阿南市外居住となった場合でも阿南市内のイベントへの参加意向も他より顕著に高くなっており、未来における阿南の存在感が高い傾向が見て取れる。

将来、阿南市をよくなる活動への参加意向



卒業後、進学や就職により阿南市外居住になった場合の帰省した際に祭りやイベントへの参加意向



25

阿南に関する情報発信サイトにあったら良いと思う記事 阿南に関する情報発信サイトへの関わり度合い

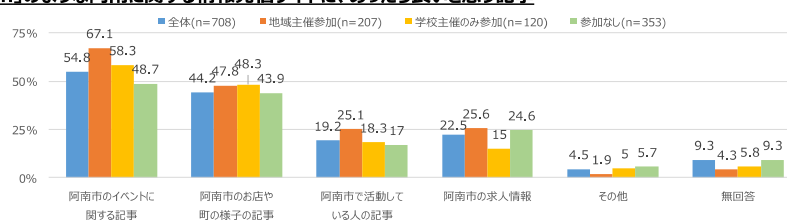
■あったら良いと思う情報は、阿南市のイベントやお店や町の様子

阿南に関する情報発信サイトにあったら良いと思う記事では、「イベントに関する記事」と「お店や町の様子の記事」が高い傾向となった。

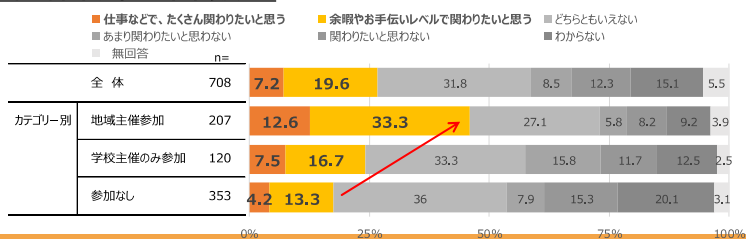
■地域主催の地域体験学習の参加経験者は、阿南市に関する情報発信への関わり意識が高い

地域主催参加は「仕事などで、たくさん関わりたい」と「余暇やお手伝いレベルで関わりたい」が他より高い傾向で、情報発信への関わり意識が高い傾向となった。

「阿南人.com」のような阿南に関する情報発信サイトに、あったら良いと思う記事



「阿南人.com」のような情報発信への関わり度合い



26

高校生インタビュー

27



②総括

②-1 高校生アンケートからみえてきた今後について

美しい自然と温かい人々に囲まれた阿南市で、4年間にわたる UIJ ターン促進調査が行われ、本年度の高校生アンケートは、その最終章ともいえる調査となった。この調査は、単なるデータ収集に留まらず、地域の未来を見据えた意義ある試みであり、多くの市民や高校生、そして自治体職員の方々との対話を重ね、その思いを一つひとつ積み上げてきた。

調査を通じて、阿南市の持つ地域資源の豊かさや、その魅力に惹かれる多くの人々の声が明らかになる一方で、地域が抱える課題も浮き彫りとなった。若者たちが地元へ愛着を持ちながらも、進学や就職を機に地域外へ流出してしまう現実。そして帰省時に感じる交流の場の不足や、移住に対する情報不足。これらの課題は、阿南市の将来にとって重要なテーマであると確信するに至った。

それでも、今年の高校生アンケートからは、地域体験学習や奉仕活動を通じて若者たちが地域に対する興味や愛着を深めていることが分かり、特に地域主催の活動に参加した高校生たちが、阿南市の未来を支える力となる可能性が期待される。彼らの声には、地域の魅力を再発見し、その魅力をさまざまな人たちに伝えたいという思いも込められている。

こうした調査結果を踏まえ、私たちは R6 年度に向けた新たな取組の方向性として、高校生と地域の大人が共に成長し合う「TAMARI-Ba」構想、情報発信を通じたつながりの継続、そしてリアルな移住情報の発信を提案したい。これらの施策が、地域の未来を担う若者たちを育成する原動力になると考えている。

阿南市が持つ自然の美しさ、人々の温かさ、それらを支える地域資源。その全てが一つに繋がり、未来を形作る力となる。これまでの調査を通じて見えてきた課題とその解決策は、地域全体の協働が生み出す未来につながるものだ。

以下に、今年の調査概要や結果、今後の方向性についてをまとめる。

②-2 調査結果の概要

a. 地域体験学習の影響

高校生は地域体験学習を通じて地域への興味・関心が高まっていることが分かった。特に地域主催の活動に参加した生徒は、地域への愛着や貢献意識が強くな

る傾向が見られ、活動別では奉仕活動が最も影響を与え、地域への関心を高めるきっかけとなった。

b. 職業選択と進路 48%

調査対象の高校生の約 44%が卒業後の進路として「進学」を希望し、約 48%が就職希望である。就職希望者の希望就職地は「阿南市内」が 27%であった。また、「徳島県内」が 34%、四国以外が 28%が市外での就職を望む傾向となった。

魅力的と思う業種は「医療業」、「公務」、「製造業」といった職種が上位となった。これは、阿南市の高校生が身近に知っている職業であることも要因となっている。

c. 地域貢献と関わり意識

地域体験学習を経験した高校生は、阿南市をよくする活動や将来的な地域イベントへの参加意向が高いことが分かった。

②-3 これまでの 4 年間の調査から見えてきた課題

令和 2 年から令和 5 年までの調査では、以下のような課題が明らかになった。

a. 関係人口の見える化

阿南市の関係人口は、自然環境の良さや教育環境に魅力を感じているが、仕事の機会や第二の接点（例えば交流イベントなど）の不足が課題として浮き上がった。

b. UI ターンの促進

高校卒業後に地域と繋がり続けるための仕組みや、リアルな移住情報の発信が不足していることが指摘された。特に、帰省時の交流の場の不足や、同窓会機能の弱さが課題となっている。

c. 高校生の地域体験学習と貢献意識

地域体験学習は高校生の地域への関心や愛着を高めるものの、学習の継続性や大人との関わりが少ないことが課題であり、地域体験を「自分ゴト」として捉えられる機会も不足している。

③ R6 年度に実施すべき施策

上記の課題を踏まえ、令和 6 年度に実施すべき具体的な施策をいくつか提案する。

③-1 「TAMARI-Ba」構想の推進

高校生と地域の大人が一緒に取り組む「場」と「機会」を提供する「TAMARI-Ba」構想を推進する。これにより、地域体験学習を通じて得たつながりを継続し、地域貢献意識を高めることを目指す。

具体的には、阿南市のふるさと未来課や大正大学地域構想研究所阿南支局及び大正大学のパートナー会社である「すだっち阿南」と協力し、高校生が地域体験学習や地域のイベントに主体的に参加できる機会を増やす。

③-2 阿南人.com の運営企画参画

高校生が自ら企画・運営し、地域の情報発信に関わる「阿南人.com」を活用します。これにより、地域とのつながりを継続し、情報発信を通じて地域への愛着や貢献意識を育むものとなる。

③-3 地域体験学習の強化

地域体験学習のプログラムを充実させ、地域資源を活用した学習機会を提供します。具体的には、自然環境や地域産業に関する体験活動を増やし、地域への理解を深める。

③-4 リアルな移住情報の発信

阿南市の魅力や移住に関する情報を積極的に発信することで、UターンやIターン希望者への支援を強化します。これには、移住者の声を取り入れたインタビューや、阿南市の生活環境に関するリアルな情報提供が含まれる。

④高校生の地域体験学習支援

昨年に続いて、高校生と地域をつなぐ活動を積極的に支援した。その一つが商店街の活性化イベント「あなんまちマルシェ」で、店主たちと高校生の企画委員を募集。応募者7人が3チームに分かれてマルシェを盛り上げる企画を自分たちで考えて実施。

高校生は自分のアイデアが実現することで、これまでのボランティアでは味わえないやりがいを感じたようで、終了後もメンバーのつながりが継続し、支局を中心に高校生のサークルが誕生しつつある。さらに、文化祭以外でバンドやダンスの発表機会がないとの相談を受け、マルシェで高校生ライブを開催。今では各地のイベントから声がかかるダンスチームもある。また、高校訪問がきっかけで本学職員の土屋光（阿南実習1期生）さんが阿南光高校で出前授業を行い、自身が感じた阿南の魅力や大正大学の取組を発表した。

高校生プロジェクト動画



また、「阿南人.com」の高校生プロモーターを養成するために、「高校生ジャーナリスト体験会」を開催。講師の長谷川加奈さん（地元ケーブルテレビの人気レポーター）からインタビューのコツを学び、実際にお店を訪問して取材体験。その後、2回に分けて前田あゆみ（阿南人の管理人）さんから、アプリを使ってカメラワークや切り貼り、音楽効果など動画編集の方法を学んだ。

そして、後日、夕暮マルシェなどのイベントを独自に取材して、制作した動画を「阿南人」にアップして、大きな反響を呼んだ。

**地域情報を発信する
《阿南人》の
高校生プロモーター
を養成する
ワークショップ**

会場：Sudatch（阿南駅前）

2日間の講座受講
▶実際にお店を取材
▶ショート動画を作成
▶阿南人(SNS)で発信！

**高校生
ジャーナリスト体験参加募集！**

2/28(wed)16:45

①インタビュー講座
イベント・テレビ番組収録
場内加奈さんから
録画インタビューのコツを
教わっていただきます！

3/2(sat) 10:00

②動画編集講座
スマートフォンの
録画した動画を
CapCutで
編集していきましょう！

Instagram: @ananjin_sudatch
申し込み ▶ @ananjin_sudatch (Instagram) DMから受付中！
運営 ▶ 大正大学阿南支局 (株式会社 すだっち阿南)



竹内水産

高校生
プロモーター
制作動画

ananjin_sudatch • フォローする

ananjin_sudatch 【高校生プロモーター制作】
この動画は阿南人の《高校生プロモーター》が制作！
夕暮市場 (@byu_guremarket_anan) に出演されていた《竹内水産》
(@takeuchi_suisan) さんを取材させて頂きました！

監：長谷川 加奈
(https://www.instagram.com/p/C5YNg22hKdQ/?
igsh=M7tpMDQ2wWE0ZB2Mw==)

📍: 竹内水産
Instagram @takeuchi_suisan
facebook:
https://www.facebook.com/share/RDbBdrbZrpKN8duy/?
mibextid=LQQJ4d
HP: https://takesuisan.com

美味しいような盛り付けが沢山！ぜひご覧ください！

#高校生 #高校生プロモーター
#阿南人 #ananjin #地域創生

阿南市 #徳島県 #阿南市 #徳島県阿南市
#anan #tokushima

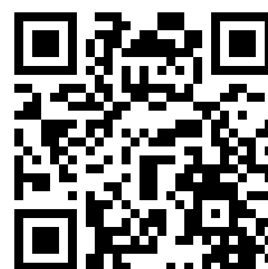
#すだっち #すだっち阿南 #sudatch

1週間前

masasigeaoki, 他70人が「いいね！」しました
4月5日

コメントを追加...

高校生プロモーター制作動画



4. SDGs の推進

阿南市 SUP タウンプロジェクトと連動して、淡島海岸の環境調査、清掃、特定外来種ナルトサワギクの駆除を行った。また、「ゼロカーボンあなん」の意識を高めるため、市職員対象の SDGs・脱炭素セミナーを開催したほか、SDGs の市民活動を紹介するパンフレットを制作した。

① SDGs 啓発イベント（清掃活動・特定外来植物の調査及び駆除活動）



ESPA対象事業

SUSTAINABLE GOALS
DEVELOPMENT

徳島県
阿南市
淡島海岸

みんなが
きれいに
するよ!

BEACH CLEAN UP
AWASHIMA

美しい淡島海岸を守り続けよう

植物の先生が
やってくるよ!

清掃と
同時に
行います

受付 9:00~
作業 9:30~11:00

2023
6/3
(土)

清掃活動

特定外来植物観察会
海浜植物観察会

特定外来植物
ナルトサワギク
オオキンケイギク

淡島海岸の海浜植物
ハマダイコン
ハマボウフウ
コウボムギ

●集 合: GOGO SUP&Cafe 淡島海岸(阿南市昭和町)
●駐 車 場: 亀崎漁港ほか(受付順でご案内いたします)
●お問合せ: (一社) グランフィットネス阿南観光協会
0884-49-3898 (阿南観光協会)
※当日 0884-22-1278 (GOGO SUP&Cafe)



② SDGs セミナー（市職員対象）の開催

阿南市と地方創生・SDGs の包括連携協定を結んでいる東京海上日動火災保険（株）の主任推進役を招いて、ゼロカーボンシティの推進に向け、SDGs/ESG/GX の基礎知識や理念、相関性、民間企業における最新の取組を学んだ。

日時 令和 6 年 3 月 1 日 （場所 市役所 6 階会議室）

講師 中塚 啓二郎 氏 東京海上日動火災保険（株）

参加 約 40 名



プログラム

13:15 開場・受付開始
13:30 講演 中塚 啓二郎氏
脱炭素社会に向けた具体的アクション
～SDGs/ESG/そしてGX～
質疑応答・意見交換
15:00 終了

2024 3/1 6F 602/603/604 会議室
(金)13:30-15:00

【市職員対象】
SDGs・脱炭素セミナーの開催

中塚啓二郎氏

東京海上日動火災保険株式会社において、地方創生やデジタルイノベーションに関する部署を歴任。SDGs分析言提議システムの構築や西国経済産業局SDGs講師、福岡県SDGs認証制度講師など、国や各自治体のSDGsや脱炭素推進に関する講演を多数行っている。

東京海上日動・阿南市・阿南信金は地方創生・SDGsの推進に関する包括連携協定を締結しています。

本市におけるSDGs・ゼロカーボンの推進を図るため、社会の現状・潮流、自治体や企業の先進的な取組を学び、業務に応用できるヒントや気づきを得るとともに、積極的な行動に繋げていくことを目的に、セミナー（研修会）を開催します。

なお、この研修会は本市が「阿南市総合計画2021▶2028」において、目指す将来像の実現とSDGsの目標の実現に向けて、一体的に取り組むこととしていることから、その一環として実施するものです。

□本セミナーは「阿南市と大正大学の連携協力に関する包括協定」に基づく連携事業として実施します。

（講演の骨子）

SDGsのおさらい（基本）・・・世間のSDGs認知度は95%と上がってきた。元々は「貧困をなくそう」というスローガンのもと16の目標ができたのがきっかけで、今も世界には支援が必要な子どもたちが多くいる。そういった理念のMDGs（ミレニアム開発目標）」から持続可能な経済に重きを置いたSDGsになった。SDGsは産業革命による地球環境への代償を問い直すための17のゴールであり、経済成長・社会的包摂・環境保護の3要素が核となる。

ESG、DXとは・・・2020年のカーボンニュートラル、2021年に打ち出された国のグ

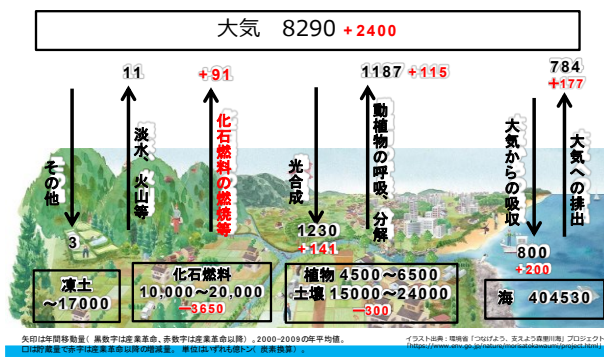
リーン成長戦略。それまで温暖化への対応は「経済成長の制約・コスト」だったが、新たな先端技術等の開発で「経済成長の機会」と捉え直すという考え方。その原動力がESG経営でありDXである。今や投資家は「環境に配慮している企業にのみ投資する」というのが世界の潮流で、CO2を出さない企業の製品は高額でも世界から注文が入る。同じ製品ならCO2を出さない企業のモノを選ぶ時代となっている。

～講演で使用したスライド（一部）～

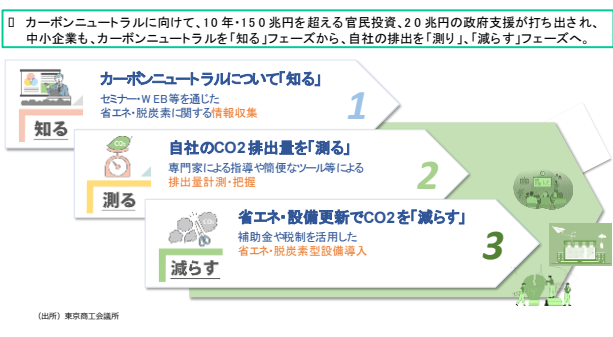
いくつかのキーワードはすべて絡み合っている



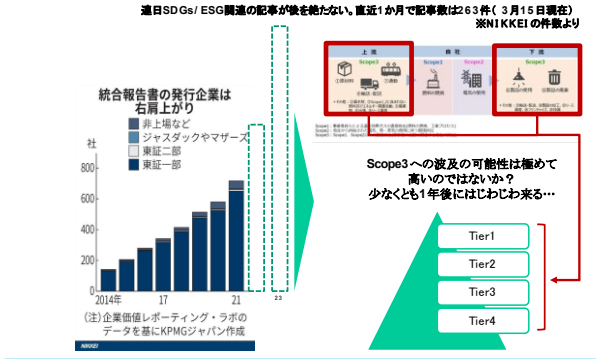
産業革命「後」のカーボンの循環



中小企業もカーボンニュートラル推進を具体化するフェーズへ



ESG・GXを上場会社が意識し始める



そもそもGXってなに？

GXとは
GXとは、気候変動対策の一環として、温室効果ガスの排出を削減し、環境負荷を低減することを目指す取り組みです。GXは、環境負荷の低減と経済成長の両立を目指す取り組みです。

日本での取り組み
日本では2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする目標を掲げています。GXは、この目標を達成するための重要な取り組みです。



② 株式会社様立飛ホスピタリティマネジメント (SORANO HOTEL)様の事例 (自然環境保護に配慮したホテル事業)

12 つくる責任 つかう責任
15 海の豊かさを守ろう

・個包装ではなく詰め替えのボトルタイプのアメニティを用意し、宿泊者自身に使い慣れた歯ブラシを持参してもらうことで使い捨てアイテムを削減。
・タオルは老舗タオルメーカーのフェアトレード認証コットンを使用し、髪や身体だけでなく環境にも配慮している。

<https://soranohotel.com/>

(質問・意見交換)

【職員】

SDGs の世界情勢から国内企業の取組など、世の中の動きをわかりやすくお話いただき、そういう時代の潮流の真っ只中にあると感じるとともに、「脱炭素に取り組まないことこそリスクである」というのがよく理解できた。

そこで、自治体の役割ですが、Scope 1.2.3 について営利目的で事業を実施しているわけではないが、自治体にも企業と同じように求められてくるか？また、阿南市には日亜化学工業という大きな会社があるが、日亜も Scope 1.2.3 の中で苦勞しており関連する事業者も市内に多数ある。そういった中で、脱炭素の取組が遅れるリスクが阿南市の地域経済にどう影響を及ぼすのか心配している。そこで1事業者でもある自治体（阿南市）の役割と地域経済を見越した中での役割について教えていただきたい。

【中塚】

日亜化学工業は蛍光体からすごく大きくなった会社で、LED の世界的な名門企業だ。会社自体の脱炭素への取組は別として、作っている製品は世界の脱炭素を進める大きな原動力になっており、自分達の製品を世の中に普及していくことが、脱炭素に貢献することになる。以前、社長にお会いする機会があったが、そのことを明確におっしゃっていた。これはすごい話で、阿南市はこういった「宝」を持っているので、そのような脱炭素に貢献する企業を支える仕組みを作られるといいと思う。それが市の役目として補助金なのか、関連する企業も対象にするのか、Scope1.2.3 の世界は必ずあるので、こういったものを組み合わせながら行政が支援をしていく仕組みを作る。このことが一番大切なのではないかな。

また、東北のある県の話だが、原発問題など企業はいろんな問題を抱えている。しかし住民のためにも地元の企業をしっかりと残していかなければいけない。それが自治体の責務でもある。そこで、補助金に加えて金融機関を一生懸命使おうとしている。「ここまで脱炭素に取り組んだ企業には低金利で貸し出す」という基準は「京都モデル」と呼ばれる。東北の自治体もそれを作ろうとしている。広域でやるのかどうかは別にして、民間の金融機関によって経済を回していく。行政は最初に1回目を動かす仕組みを作って、以降は金融機関がそれを動かす。金融機関はどういったロジックでお金を貸していけばいいかを考えてながら次々と融資をしていく。「SDGs に関係するのだったらこうやっていいよ」みたいな・・・行政が仕組みを作ってあげるというのもいいかもしれない。また、尼崎市のように「テーマを決めて地域ぐるみの脱炭素を

ブランディングしていく」(環境省のホームページにもアップされている)。こんなところも参考にさせていただけたらいいと思う。

【職員】

市役所が1事業体として取り組む役割についてはどうですか？なかなか進めていない様に思っていますが。

【中塚】

例えばこの市役所の建物を見ても、随所に脱炭素の取組があると思う。LEDもそうだし空調なんかも全部・・・それは一つのシンボルになっているのかなと感じる。そして市役所は住民に一番近い自治体であり、住民との連携をいかに進めていくかというのも重要。そのために、ある自治体さんではアクセルトレーニング(アクセルを柔らかく踏みましょう、急ブレーキ、急発進を避けましょう)という運動をみんなでやった。代表者10人を選んでデータも収集して、これだけガソリンが減りました、事故も少なくなりました・・・というような意識の醸成。そんなことをやるのも一つの方法かなと思う。いろんなメニューがあるので、民間とタイアップして進めていかれたらいいんじゃないかと思う。

【職員】

実は今朝、そのアクセルトレーニングの新聞記事を課内で共有したばかりです。西条市や今治でやられているモデルでしたが、阿南市もぜひ参考にしたいと思います。ありがとうございました。

(まとめ)

前身の東京海上火災保険株式会社の創立は明治12年。日本が近代化を目指して海運・貿易が盛んになり始めた頃に生まれた日本初の保険会社である。貨物や船舶の保険に始まり大正3年には自動車。以降、火災保険、工場機械や航空機まで産業革命の進化に伴って事業を展開し、今も保険業では国内トップのシェアを誇り、そして今、社会経済を支える企業のパートナーとしてSDGsを支援している。その活動の推進役である中塚先生の講演は幅広い知見と活力に溢れていた。出席した市職員はSDGsが生まれるきっかけや現在の世界情勢を再確認し、ゼロカーボンシティ宣言を行った阿南市が地元企業や市民と連携して今後どのような取組をしていくべきか、また1事業体でもある市役所がどのように実践していくべきかを考えるきっかけになったのではないかと感じる。

anan SDGs glasses

阿南SDGsグラスイズ

阿南市のSDGsの取り組みを、伊予のSDGsの取り組みを通して「いまの阿南」を見る。

阿南市のSDGsの取り組みは、伊予のSDGsの取り組みを通して「いまの阿南」を見る。阿南市のSDGsの取り組みは、伊予のSDGsの取り組みを通して「いまの阿南」を見る。阿南市のSDGsの取り組みは、伊予のSDGsの取り組みを通して「いまの阿南」を見る。

ササユリの咲く伊島を未来へ

伊島のササユリが、伊島を未来へ

伊島のササユリが、伊島を未来へ

伊島のササユリが、伊島を未来へ

阿南市SDGsの取り組みは、伊予のSDGsの取り組みを通して「いまの阿南」を見る。阿南市のSDGsの取り組みは、伊予のSDGsの取り組みを通して「いまの阿南」を見る。阿南市のSDGsの取り組みは、伊予のSDGsの取り組みを通して「いまの阿南」を見る。

阿南市SDGsの取り組みは、伊予のSDGsの取り組みを通して「いまの阿南」を見る。阿南市のSDGsの取り組みは、伊予のSDGsの取り組みを通して「いまの阿南」を見る。阿南市のSDGsの取り組みは、伊予のSDGsの取り組みを通して「いまの阿南」を見る。

夕暮市場でまちを元気に！

夕暮市場でまちを元気に！

夕暮市場でまちを元気に！

夕暮市場でまちを元気に！

SDGs Glassesとは？

SDGs Glassesとは、持続可能な地域づくりのために活動する人々が見える魔法のメガネです。

SDGs Glassesとは、持続可能な地域づくりのために活動する人々が見える魔法のメガネです。

SDGs Glassesとは、持続可能な地域づくりのために活動する人々が見える魔法のメガネです。

阿南市SDGsの取組

SDGs・脱炭素セミナーの開催

阿南市SDGsの取組

SDGs・脱炭素セミナーの開催

阿南市SDGsの取組

SDGs・脱炭素セミナーの開催

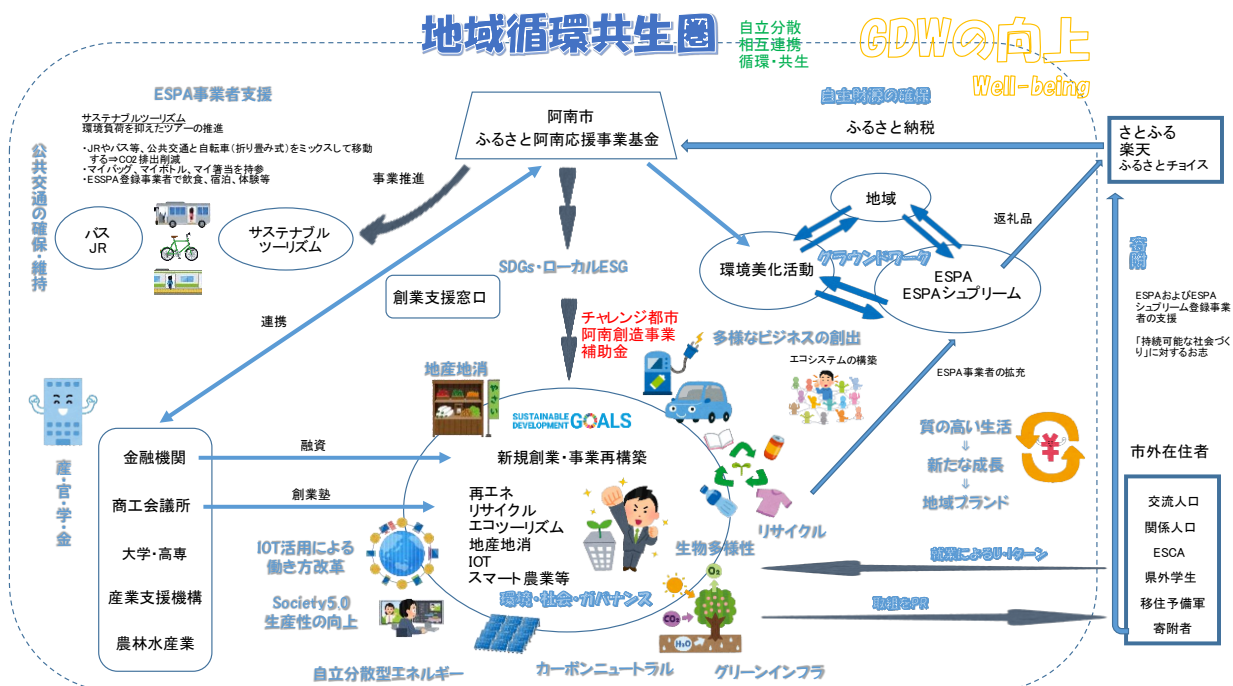
43

5. 地域循環共生圏の推進(チャレンジ都市阿南創造事業)

地域循環共生圏とは、環境と経済・社会の統合的向上と地域資源を活用したビジネスの創出で「新しい成長」を実現する新しい概念で、地域の貴重な自然環境や歴史・文化を活用したビジネスを展開し、環境と経済を好循環させる考え方だ。

その推進のため、阿南市はSDGsやESG経営の先導的なビジネスを展開する新規創業及び事業再構築を支援する「チャレンジ都市阿南創造事業補助金」制度をスタートさせ、2022年は5件（新規創業3、事業再構築2）が採択されて事業を実施。2023年は新規創業と事業再構築の区別なく初期費用（対象経費の1/3以内：上限100万円）と実績分（次年度：初期費用と同額）に分けて継続的に支援する制度に見直しを行い、6件の申請が採択された。

については、本年も研究事業の一つとして採択された事業者の伴走型フォローアップを行った。以下、自然エネルギーや食品ロス、エコ、環境改良を実践する「キッチンカー、マフィンの製造、竹炭の新たな活用」など5件（1件は本人都合により辞退）の事業内容及びフォローアップ活動の成果について、報告と考察を記述していく。



①チャレンジ都市阿南創造事業実施のイメージ

チャレンジ都市阿南創造事業補助金のスケジュール等について

1 補助率、補助金額及び採択予定件数

イニシャルコスト分(当該年度)と事業実績分(次年度)に分けて申請受付及び交付
イニシャルコスト分(当該年度)への補助として補助対象経費の3分の1以内
上限額は新規創業、事業再構築とも 100万円(併せて10件)

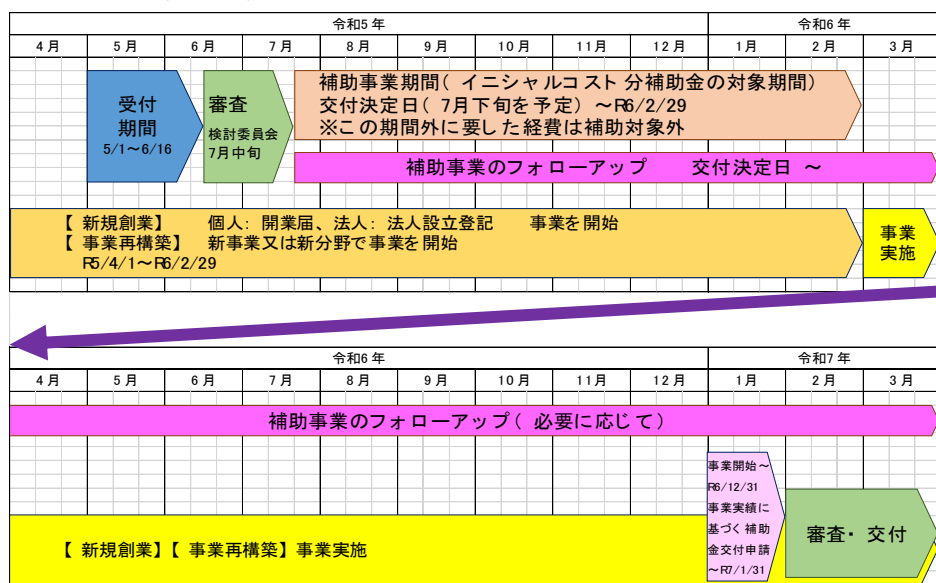
※選考は、環境・金融・経営の専門的知識を持った有識者によって組織される検討委員会において、書類審査により委員の意見を聴取し、採択・不採択を決定します。採択予定件数を必ず採択するものではありません。

事業実績分(次年度)は、イニシャルコスト分の補助金交付後、事業実施による翌年12月末までの実績に基づき、イニシャルコスト分の補助金交付額を上限(3分の1以内)に成果運動型補助金として交付予定(令和6年度当初予算要求)

イニシャルコスト分(3分の1以内)と事業実績分(3分の1以内)併せて(3分の2以内)

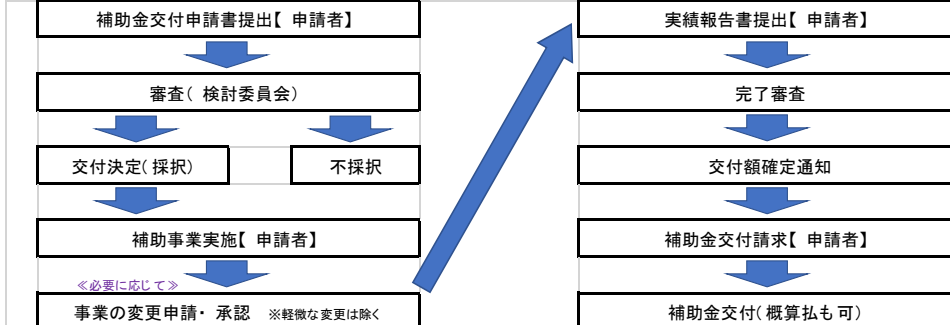
※令和6年度交付予定である事業実績分は、予算について市議会の議決を経ていないため、補助事業の実施をお約束するものではありませんので、あらかじめご了承ください。

2 スケジュール《令和5年度開始分》



※交付決定日前(令和5年7月下旬予定)に要した経費は補助対象経費とはなりませんのでご注意ください。

★補助事業の主な流れ《令和5年度》



②採択事業者の決定

申請件数・・・新規創業 6 件、事業再構築 3 件

専門的かつ幅広い知見を有する有識者で構成する検討委員会（7/18 開催）で、申請のあった事業の評定について意見交換を行う。

検討委員会での意見を参考に市長が採択事業者を決定

チャレンジ都市阿南創造事業補助金 採択事業について

チャレンジ都市阿南創造事業補助金検討委員会委員の評定および意見を踏まえ、採択事業を決定いたしました。

【対象事業】 本市及び市内事業者の価値向上を図り、地域経済の好循環等につなげることを目的として、SDGsの実現やESG経営に関係する新たな商品・サービスの開発等、先導的なビジネス展開により実施される新規創業や事業再構築事業

【採択件数】 6 件（新規創業 4 件、事業再構築 2 件）

【採択事業】

区分	申請者	事業内容
新規 創業	清水技研㈱ 清水 達生	超小型衛星・キューブサット（10kg 以下程度の人工衛星）用の広帯域通信機の開発及び製造販売
	（一社）恵竹産業開発 普及協会 藤崎 稔	化石資源に代わる新しい有機性資源としての竹に注目・活用し、竹灰肥料や竹炭の製造販売
	おむすび屋 たけはる 中村 佳代	無農薬で育てられた那賀川町産の 1 等級米を使用した「おむすび」をキッチンカーで移動販売
	コーヒー デザイン キリク coffee design KIRIKU 埴淵 悠	フェアトレードで取引されたコーヒー豆を仕入れて焙煎し、EC サイト、店頭、マルシェ等で販売
事業 再構 築	有限会社ウト・ワーク 木元 幹雄	地産地消をコンセプトとしたカジュアルなイタリア料理店（トラットリア）の開店
	プラネタリー マフィン Planetary Muffin 中村 雅子	オーガニック、フェアトレード、農薬不使用の原料をなるべく選択の上製造する、季節感を大切にマフィンを直営の実店舗でも販売

【事業実施予定期間】 7 月下旬～令和 6 年 2 月下旬

問い合わせは ふるさと未来課（☎22-7404）へ

③フォローアップ活動

採択事業者（新規創業 3 件、事業再構築 2 件）のフォローアップ活動を展開。
（出席：市役所ふるさと未来課、アドバイザー 2 名、支局 1 名）

① 第 1 回ヒアリング（8/7,8）

事業内容及び SDGs/ESG、資金計画等の確認。懸案事項の洗い出しなど。

② 第 2 回現地ヒアリング（11/29,30,12/1）

事業の進捗状況（導入施設や店舗）の確認。次年度以降の継続に向けたアイデアなど。

③ 必要に応じて、随時、個別に聞き取り、助言を行なった。

アドバイザー 岩浅有記 大正大学地域構想研究所

A portrait of Yuuki Iwasa, a man with glasses wearing a blue bucket hat and a dark jacket, looking slightly to the side.

Yuuki Iwasa

1979年2月徳島県阿南市生まれ。
環境省、国土交通省勤務を経て2021年から
大正大学地域構想研究所准教授。
観光庁アドバイザー（広域周遊観光促進のための
専門家派遣事業登録専門家）、
佐渡市総合戦略アドバイザー、北本市地域循環共生圏
アドバイザー。専門は環境政策、自然活用地域創生。
環境とのシナジーによる農業や観光の高付加価値化や、
アドベンチャーツーリズム、ウェルネスツーリズム等の実装を
各地で行う。佐渡、奄美大島、対馬等、
島に着目した地域創生にも力を入れている。

アドバイザー 横手博一（中小企業診断士）

Profile

横手博一中小企業診断士事務所 中小企業診断士 横手博一さん

経営理念を大切に、経営者に寄り添いながら創業・持続的な経営・事業改善支援のほか、補助金や給付金などの計画づくりのサポートをしている。「徳島県よろず支援拠点」のコーディネーターとしても活動中。



阿南ふ第33号
令和5年7月31日

チャレンジ都市阿南創造事業補助金
被交付決定者 有限会社ウト・ワーク 御中

阿南市長 表 原 立 磨
(公 印 省 略)

チャレンジ都市阿南創造事業補助金事業個別ヒアリングの実施について（通知）

このことについて、本補助金の趣旨である、SDGsの実現やESG経営に関する新たな商品・サービスの開発等、先導的なビジネス展開により補助対象事業を実施していただく必要があることから、円滑な事業実施に向けてのフォローアップを目的に個別ヒアリングを行います。

貴事業者については、下記の日程等で実施しますので、御出席をお願い申し上げます。

記

- 1 日 時 令和5年8月7日（月） 午後1時30分から 1時間程度
- 2 場 所 阿南市役所 5階 501会議室
- 3 内 容 (1)事業内容について
(2)SDGs及びESG経営について
※最初10分程度で事業内容について御説明をお願いいたします。
- 4 聴取者 大正大学地域構想研究所 准教授 岩浅 有記
大正大学地域構想研究所 研究員 鈴江 省吾
経済産業大臣登録 中小企業診断士 横手 博一
阿南市ふるさと未来課
- 5 持参物 補助金交付申請書、その他事業内容等の説明に必要な資料

※阿南市と大正大学は地方創生に関する包括連携協定を締結しており、本補助事業のフォローアップ業務を委託しております。

阿南市企画部ふるさと未来課
担当：小谷
電話：0884-22-7404
Mail：sien@anan.i-tokushima.jp

阿南ふ第61号
令和5年11月2日

チャレンジ都市阿南創造事業補助金
被交付決定者 有限会社ウト・ワーク 御中

阿南市長 表 原 立 磨
(公 印 省 略)

チャレンジ都市阿南創造事業補助金事業現地ヒアリングの実施について（通知）

このことについて、本補助金の趣旨である、SDGsの実現やESG経営に関係する新たな商品・サービスの開発等、先導的なビジネス展開により補助対象事業を実施していただく必要があることから、円滑な事業実施に向けてのフォローアップを目的に事業実施場所において進捗状況に関する現地ヒアリングを行います。

貴事業者については、事前に調整させていただいた下記の日程等で実施しますので、御対応よろしくお願い致します。

記

- 1 日 時 令和5年12月1日（金） 午前10時から 1時間程度
- 2 場 所 事業実施場所：阿南市羽ノ浦町宮倉芝生 79 番地 1
- 3 内 容 (1)事業の進捗状況について
(2)SDGs 及び ESG 経営について
- 4 聴取者 大正大学地域構想研究所 准教授 岩浅 有記
大正大学地域構想研究所 研究員 鈴江 省吾
経済産業大臣登録 中小企業診断士 横手 博一
阿南市ふるさと未来課
- 5 その他 事業進捗状況の説明に必要な資料があれば5部御用意ください。

※阿南市と大正大学は地方創生に関する包括連携協定を締結しており、本補助事業のフォローアップ業務を委託しております。

阿南市企画部ふるさと未来課
担当：小谷
電話：0884-22-7404
Mail：sien@anan.i-tokushima.jp

清水技研株式会社

代表取締役 清水 達生

超小型衛星・キューブサット（10 kg以下程度の人工衛星）用の 広帯域通信機の開発及び製造販売

第1回ヒアリング

8/8 11:00～阿南市役所501会議室

はじまり



- ・宇宙との出会いは幼い頃の絵本からで、高専から大学、さらにアメリカ留学を経て、フィンランドで人工衛星の研究に打ち込む。コロナでのリモートワークをきっかけに帰国。阿南市で起業して超小型衛星搭載用の高速通信機器の開発・実用化を目指している。
- ・高速の無線機だと高価で販売できる。
- ・ワークライフバランス。
- ・海外メーカーとの差別化。（サポートの悪さを解消）
- ・令和8年には開発した衛星を自社で打ち上げたい。
- ・宇宙のまち阿南としてロケット（ほなけんど1号）を打ち上げたい。

事業費	1,799,240 円
（真空装置の改修、事務機器購入、建物賃借料、ホームページ制作、技術指導料など）	
補助対象	1,799,240 円
補助金	599,000 円

関連SDGs

- 2) 飢餓をゼロに（衛星開発で地球の収量を予測し食糧安全保障を実現）
- 3) 全ての人に健康と福祉を（北欧の働き方を導入）
- 7) エネルギーをみんなにそしてクリーンに（再生可能エネルギー活用）
- 8) 働きがいも経済成長も（地方でも高所得を得る）
- 9) 産業と技術革新の基盤を作ろう（衛星の少数精鋭化）
- 13) 気候変動に具体的な対策を（衛星で地球のバイオマスを測定しCO2削減に貢献）
- 15) 海の豊かさを守ろう（地球の森林伐採等を監視し生物多様性を守る）



主な質疑応答・感想

□高速で電波を飛ばしたら、どのような素晴らしい社会が実現するか？

○現在の衛星写真は一周で30～40枚しか写せないが、高速化できれば大量の写真が送信可能となり、多くの貴重なデータが得られる。

□日本に優位性、ポテンシャルは？

○日本は危ないと感じる。経産省の宇宙戦略では、小型機はほとんど輸入品となっている。

□特許取得は？

○システム特許取得は可能。但し、ブラックボックス戦略もあり得る。

□9時5時、長期休暇が取れる、日本の雇用・働き方の問題点は？

○空気を読みすぎる、リダンダンシーが過ぎると思う。

□2年目以降の収支は希望。しかし1年目の収支は実績に基づいているので妥当。

□雇用以外の地域貢献は？

○野球のまち、光のまち、宇宙のまち阿南・・3つの掛け合わせで注目される。

□夢のある事業なので、軌道に乗っていただきたい。

□行政もこれを推進する仕組みづくりをお願いしたい。野球のまち、光のまち、宇宙のまち阿南・・の相乗効果で元気ができます。

□今日のヒアリングで話し合ったアイデア（特にSDGs/環境）を整理して、修正・追加できる箇所は取り組んでください。12月に現地も見せて頂いたり、進捗状況を聞いて再度フォローアップします。

現地ヒアリング 11/30 11:00～ 阿南市インキュベーションセンター 進捗状況

（経過）11/7に事業変更承認申請

- ・別場所の会議室賃料を除外。設備費を増額（電源、電子部品収納棚、コンプレッサー）。
- ・試作品を作る設備は順調に整いつつある。補助対象の真空装置、除湿機、検査機器を確認。顕微鏡など実験体制も充実している模様。不安材料はマンパワー不足（従業員が個人で対応）



主な質疑応答

□真空装置はなぜ必要なのか？

○無線機器が宇宙空間でも正常に動作するか見極めるには、減圧した容器に入れて試験する必要があるため。

■中古のチャンバーをリサイクルして実用できるように改造した）

□乾燥除湿器はなぜ必要か？

○はんだ付けした基盤が湿気で割れないように湿度を一定に保っている。また、静電気防止のため空調も重要。

□市内の事業者との連携は？

○真空装置に必要なフランジの加工など、地元業者に発注している。小回りが効いてありがたい。

□海外からの部品が多いが？

○多様な部品が安価で取得できる。

□通信速度をどうやって上げるのか？

○エラーの訂正技術の高速化など。
（フィンランドやアメリカから指導を受けている）

□他の補助事業の活用は？

○持続化補助金は採択された。国や県の補助金等も将来の視野に入れている。

□会社のホームページは？

○発注済み。（ロゴ、ライターなど制作会社と打ち合わせ済み）

□特許出願は？

○ノイズの除去で県の工業試験センターの弁理士にインビット相談予定。
（横手診断士が助言済）

□人材の確保は？

○2倍働いてくれる人には2倍の給料をと考えている。マネジメントができる有能な人を望む。（横手診断士からプロフェッショナル人材制度の説明あり）

□人工衛星から海の藻場監視はできるのか？

○現状、海面から衛星センサーまでは、植物の種類まで判別可能。写真では色で状況が目視できる。

□阿南高専との連携は？

○実験機器の使用などで、協力体制を継続している。



現地ヒアリングを終えての講評

□取り組みの意義や方向性は申し分ないし夢のある事業だと思う。阿南が宇宙のモノづくりの先進地になってほしい。ブルーカーボンの視点から海の中の様子や藻場が人工衛星から簡単に調査できるといふ可能性が大きく広がる。さらに言えばサンゴの調査も簡単にできるようになると良い。自然環境調査は従事者の高齢化で年々困難となっており、超小型衛星を使う意義は大きい。

□今回のチャレンジ都市阿南創事業補助金以外の県や国の補助金取得も順調で開発環境は整いつつある。今後の事業の爆発的拡大の道筋は未知数ながら、大勢の人から支援が期待されるプロジェクトである。地元行政の支援も得ながら、「ほなけんど1号」を成功させ「宇宙のまち阿南」を実現して欲しい。 ※県の発明協会（横手）紹介済み ※人材不足を支援するプロフェッショナル人材拠点の情報提供済み

□宇宙を舞台とした非常に壮大で夢のある事業計画である。事業者は真空装置を自前で修理するなど技術者としての能力とバイタリティーの高さが感じられる。熾烈な競争が待ち受けている先端技術分野だが、是非とも宇宙のまち阿南を実現させてほしい。阿南市科学センター等で宇宙を学ぶ講師として子どもたちに夢を与えてほしい。

□技術的なことは理解出来ない部分もあったが、この事業が成功し将来において阿南市の産業として市外から多くの人が訪れると共に、新たな雇用が生まれることを期待している。

実績報告（本人評価・今後の抱負）

事業費	1,844,253円（真空装置改修、事務機器、建物使用料、WEB制作、共同研究費）
補助対象	1,844,253円
補助金	599,000円 ＊実績額

【事業実績のまとめ】

- ・マーケティングのため、ロゴとホームページのデザインをデザイン会社に業務委託。
- ・環境に配慮した事務機器を導入し、阿南市インキュベーションセンター内の事務所の研究開発環境を整えた。
- ・廃棄されかけていた圧力釜を譲り受け、真空チャンバーに改修した。
- ・阿南高専とハンダ量産に関する共同研究を実施した。
- ・阿南市の推奨するSDGsへの取組を宣言するESPA（EARTH SHIP PARTNER ANAN）の認定を受けた。

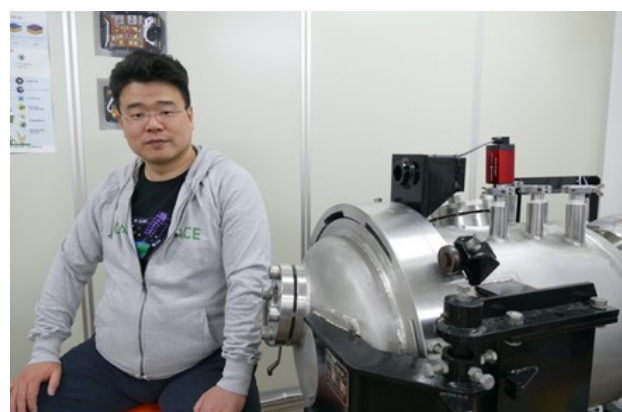
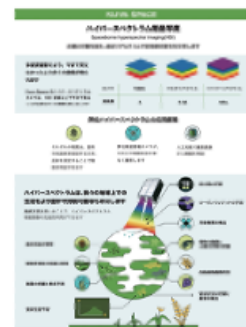


【総評】

「本当は安定した職につきたかった。でも宇宙が好きすぎてやめられない・・・それが私が抱える深刻な問題です！」そう言いながら笑う清水さん。言葉の裏には研究者としての自信がうかがえる。

自社の研究室で顕微鏡を見ながらハンダ付けで電子基盤を作り、過酷な宇宙環境を再現する手製の真空装置の中で実験を繰り返す。清水さんが開発する高速通信機器が実用化されれば、宇宙からのデータ送信が倍増し、地球環境を守るための監視や探査に画期的な効果をもたらすだろう。

世界を相手にした技術開発やマーケティングが求められる分野であるが、連携するフィンランド企業のノウハウ、さらに企業や国、自治体の賛同を得て、ぜひ阿南の地から宇宙に衛星を打ち上げてほしい。そのことが、次世代の子どもたちに大きな夢を育むことになる。持続可能な社会の実現に向けて宇宙という大きな視点に期待したい。



（参考：清水氏の略歴）

那賀町出身で阿南高専から九州工業大学へ進学。その後、英国サリー大学に留学して4年後に博士号を取得。その後、フィンランドの企業と小型衛星の共同研究を始め、ベンチャー企業のKUVA SPACEに転職。コロナを契機に帰国し、阿南市インキュベーションセンターで2023年に新会社を設立して現在に至る。

一般社団法人 恵竹産業開発普及協会

代表理事 藤崎 稔

化石資源に代わる新しい有機性資源としての竹に注目・活用した竹灰肥料や竹炭の製造販売

第1回ヒアリング

8/7 14:30～ 阿南市役所501会議室



はじまり

- ・15年前から竹を資源化したい思いを持っていた。
- ・阿南高専と連携。（昨年12月にスタート）
- ・竹の処分が負担になっていた。廃棄・野焼きもできなかった。これを有効活用して、再生リサイクルで肥料を作る。
- ・肥料の販売登録済み。
- ・磯焼けの解消。
- ・新日本電工のマンガンスラグや鶏糞の活用。
- ・竹灰からカリウム。
- ・今は実証段階。
- ・この事業に関わる人が全てお金になる仕組み。

事業費 3,514,500円

（竹灰製造の燃焼場、防火池及び付帯設備、コンサルタント料、成分分析委託料）

補助対象 3,514,500円

補助金 1,000,000円

関連SDGs

9) 産業と技術革新の基盤を作ろう

（竹を原料にした新たな産業を興したい。J-クレジット制度の活用で地元企業の参画を促す）

14) 海の豊かさを守ろう

（竹灰のカリウム等の成分活用で荒廃した漁場や藻場の環境を復興する）

15) 陸の豊かさを守ろう

（農業に汚染された土壌改良を実施する、有機肥料有機農法の拡大で農産物の付加価値を向上させる）



主な質疑応答・感想

□コストはどうか？ 高付加価値で販売できそうか？

○1キ口あたり1,000～5,000円。通販もある。1万も2万もある。

□阿南市の施策との連動が不可欠。無農薬給食や生ゴミと竹を混ぜた肥料などいろんなことが考えられる。

○市の各部署に理解を求めている。

□どこで誰に使ってもらうことを想定しているか？

□次世代が潤うビジネスモデルとなる。環境と地域の視点は申し分ないので経済の視点を強調していただけると良い。

□特許はどういうもので、いつ取得するのか？

○システムのビジネス形態に対するもので今月中にも取得できる見込みである。

□今回の計画書では作業場は一つだが、今後の展開では各竹林にそれぞれ作業場が設置されるということか？

○その通りです。

□収支において仕入原価の記載がないのはどういうことか？ また、ネット販売の相場が1,000～5,000円とのことだったが、申請書の収支では500円となっている。なぜか？

○製造に関係する全ての者がWinwinに

なる仕組みとなっているが、表現が難しく疎明できなかった。

□「誰に、何を、どのように」の基本戦略が行政マターとなっていることが、実現性・継続性の点で不安を残すものの、ブレイクスルーを期待する。

□今日のヒアリングで話し合ったアイデア（特にSDGs/環境）を整理して、修正・追加できることは取り組んでください。

12月に現地も見せていただいたり、進捗状況を聞いて再度フォローアップします。

現地ヒアリング 11/29 16:00～ 新野町の竹林

進捗状況

当初計画のコンクリート製の燃焼場、防火池は場所が限定されて竹を運ぶ手間が大変なため、移設可能なドラム缶方式に変更して、さらに実験を行う。

主な質疑応答

□変更した経緯は？

○燃やしやすい枯れた竹は複数の竹林から運搬する必要があることに気づき、機動性の高いドラム缶方式を思いついた。

□竹林農家の協力者はいるのか？

○新野町で複数の竹林を管理している人の協力を得て実験を開始した。

□灰の効能を裏付ける分析は？

○専門の試験機関に依頼する。

□ドラム缶式の使用方法是？

○竹を割いて適当な大きさに切り、ドラム缶に入れて蓋をして蒸し焼き状態にする。手前に竹灰、奥に竹炭が残り、蒸気は冷えて竹酢液として採取できる。

□燃焼実験は？

○近いうちに行う。

(燃焼実験に立ちあうこととする)



現地ヒアリングを終えての講評

□取組の意義や方向性は申し分ないが、徹底的に実証実験を行い、コストがどれだけかかるかを検証し、さらなる努力の結果、事業継続のための低コスト化が実現できるかどうか今後の普及に大きく関わってくる。

□竹の力で地域の課題解決を図り、関わる人が全てwinwinとなる。夢を感じる計画で応援していきたい。ただ、実証実験が遅れていることが気になる。また原価計算のエビデンスとなる資料提出が遅れているのでそこは明確に。

□放置竹林の問題に真正面から取り組むという志の高い独創的な計画ではあるが、実施場所や焼却設備仕様の変更を予定しており、事業を開始しても生産量の確保など採算ベースに乗せるための工夫が必要ではないかと思われる。

今回見せていただいた焼却炉は消防関係部署からも設置はOKとの事ですが、湿度の多い梅雨時などに煙が近隣の民家まで近づく恐れがないか心配する。事前に付近の方にも事業の説明をしておいた方が良いのではないかな。

燃焼実験の立ち会い 1/17 13:30～ 那賀川町本社の実験場

ドラム缶に竹を入れて火が回った状態で、ブロックと土で蓋をして蒸し焼きにする。煙がパイプ煙突を通る過程で冷えて竹酢液ができ、ドラム缶では竹炭と竹灰が残る仕組みとなっている。

主な質疑応答

□実験の結果は？

○いろいろ改良を重ねた結果、うまく機能しており実用化の目処がたった。竹酢液が予想以上に多く生成されている。

□課題は？

○ドラム缶に蓋をするのに、やや手間がかかるので、ブロックの積み方や土の掛け方を工夫しているところだ。

□実際の竹林で設置できるのか？

○すでに福井町の竹林で8基設置しており、ある程度のスペースがあれば問題なく設置できる。

□農家の方の反応は？

○枯竹の処分に困っているのが、実際に稼働し始めたら大いに興味を持ってもらえる。

□周辺の住民は？

○状況を説明して、理解してもらっている。



実績報告（本人評価・今後の抱負）

事業費	3,290,100円
（燃焼場建設に要する竹処分、造成工事、プラント設備、マーケティング及び技術指導等）	
補助対象	3,290,100円
補助金	1,000,000円 ＊実績額

【本人評価】

枯竹が散乱する放置竹林で先行的に造成し、燃焼場と貯水槽を仮設置したが、竹の運搬や作業効率に課題がみられたため、協会事務所横にプラントを4基設置して燃焼実験を重ねた。その結果、効率的に炭・灰・竹酢液が得られた。また、竹塩の製造も可能であることがわかったのも大きな収穫である。この実験を踏まえ、次に福井町の竹林で燃焼場を造成。1日の生産量と利益、また今後の生産量増加を見越して8基のドラム缶燃焼プラントを設置した。

その結果、燃焼プラント1基あたりの処理量は青竹50kg、枯竹150kgで、そこから竹炭5kg、竹灰0.5kg、竹酢液10kgが生産できることが判明。4基稼働すると、処理量は青竹200kg、枯竹600kg。生産量は竹炭20kg、竹灰2kg、竹酢液40kgとなる。

マーケティング・技術指導の面ではSQXの成分分析、竹灰肥料の製造・販売・応用展開の調査分析を行った。また、製造方法や製品の知的財産登録を見据えた打合せや技術指導を受けて、今後の更なる効率的な生産及び採算性や普及活動の展開の具体的な戦略を立てることができた。

【今後の抱負】

まずは、竹灰の生産目標を1日60kg×40日間＝2,400kgとし、1kg単価1,200円×2,400kg＝2,880,000円の売り上げを目指したい。また、2/24開催の「阿南市活竹祭」で生産された製品を展示して大きな反響があった。この取組を各地域に展開していくために「恵竹いかすかい大原」を設立した。竹の処理で困っている竹林農家の皆さんに画期的な方法を知ってもらう活動をしていきたい。

【総評】

竹は天から恵まれた最大の資源・・・「恵竹」の由来はここから生まれたそうだ。一連の取組で生成される製品のラインナップは竹チップ燃料から肥料・竹塩・竹酢液、未来資源となるオリゴ糖まで様々。多孔性に優れ、セルロースが最も多く取れるのが竹で、竹酢液は殺菌・防虫・農薬としての効果があり、ミネラルが豊富に含まれる竹塩は調味料の商品化を目指している。また、竹を沈めて海藻を繁殖させる実験も始まった。竹林整備や竹産業の普及を实践する団体と「恵竹いかすかい大原」ではたけのこ農家や若者・起業家の育成にも力を入れ人員を募集中とのこと。竹林の条件や人員の確保、商品のマーケティングと様々な課題はあるが、阿南の竹を生かした産業づくりのシンボルとなることをきたいしたい。



おむすび屋 たけはる

中村 佳代

減農薬で育てられた那賀川町産の一等級米を使用した
「おむすび」をキッチンカーで移動販売

第1回ヒアリング

8/7 15:30～ 阿南市役所501会議室

はじめ



- ・おむすびのみを販売するキッチンカーは県内初
 - ・朝、精米したお米を使用しており米粒の大きさが自慢
 - ・企業や工場に出向いて健康的な食事を提供できる
 - ・売上平均は3万/日
 - ・味噌汁付きの弁当も
 - ・JAS認証はこれから(無農薬、減農薬)
- *5/22 (所有地がある阿南医療センター前でプレオープン)

事業費	2,731,905円
(キッチンカー改造、ソーラーパネル取付など一式)	
補助対象	2,731,905円
補助金	910,000円

関連SDGs

- 3) 全てのの人に健康と福祉を (日本古来のおむすびで健康に配慮した食を提供)
- 9) 産業と技術革新の基盤を作ろう (キッチンカーにソーラーで自然エネルギーを活用)
- 11) 住み続けられるまちづくりを (キッチンカーの機動性で飲食店のない地域にも出店)
- 12) つくる責任つかう責任 (フードロスを最小限にして、簡易包装とします海の豊かさ、陸の豊かさ)



主な質疑応答

□商品の特長は？

○地産の具材、天然出汁、ポット苗で栽培した大粒の米にこだわり、握り立てのおにぎりを提供している。

□食材廃棄、フードロスの問題をどのように捉えるか？どのような工夫をされているか？

○売れる売れないの変動は大きいですが、中間値で作って売り切れ次第終了。余った場合は加工品や子ども食堂への配布を検討している。

□地産100%の反応を見える化すれば、もっと売りにできるのではないかな。

□ブラ包装紙は使っているか？

□なぜ、使っている那賀川町のお米が美味しいと言えるのか？

○実家が苗から独自の方法で育てており、今期中にはJASがとれる予定。農協には出荷せず、独自の商標「天味米」をブランド名にしている。

□医療センター以外での展開はあるのか？

○お米が自前なので現時点の在庫を考えると他に出店できなかった。新米ができると他にも展開したい。

□計画書はそつなく書かれている。書いてない強みも今回のヒアリングで聞き取れてポテンシャルの高さが感じられた。

□実家の栽培面積は？

○東京ドーム4個分と聞いている。
(*4.7ha *4=18.8ha)

□具材のレパートリーは？

○シャケ、タラコ、明太子、昆布、梅、牛すじ、ツナマヨなど。

□客層は？

○意外と年配層が多い。

□今日のヒアリングで話し合ったアイデア(特にSDGs/環境)を整理して、修正・追加できるところは取り組んでください。12月に現地も見せていただいたり、進捗状況を聞いて再度フォローアップします。

現地ヒアリング 11/29 14:30～ 阿南医療センター前 進捗状況

キッチンカーの改造は完成。医療センターで週4日。そのほか各所のイベントに出店している。

主な質疑応答

- ソーラパネルは？
○取り外し式で天気や空調使用の具合で使い分けている。
- ポータブル発電機は？
○車内の厨房棚の中に格納している。
- 売れ残った場合は？
○宝田にある学童施設（宝島クラブ17人）に差し入れして、喜ばれている。
- 販売状況は？
○予想以上で売上は順調に推移している。ただ、天候不良やイベントの翌日は不調。
- 地元の食材はどこから調達しているのか？
○肉は「のべ」魚は「お魚ひぐち」など。地元の漬物も使用している。
- 米の有機JAS認証は？
○まだ取得できていない。来年目指します。
- スタッフは？
○通常は私含めて2名だが、握るのが私だけなので、練習をしてもらっている。
- 改善したいところは？
○にぎりたての包装紙がご飯粒が引付くので、いい紙を探している。
- にぎりたてと作り置きの違いは？
○握るのに少し時間がかかるが、ホクホクの食感が楽しめる。時間のない人や冷たいのが好む人は作り置きを買ってくれる。
- 日除け（オーニング）の利便性は？
○長さが調節できて日除けになり、外観もマッチしている。



現地ヒアリングを終えての講評



□太陽パネル等の導入でエコな取組もいいが、地産地消も大事な観点で海産物などを取り入れているのは素晴らしい。ただ、どの具材が地元産（どこで採れたもの）なのか明示すれば買った人が意識して食べるので具材自体のブランド化や消費につながるのでは面白い。



□「キッチンカーでおむすびだけ売る業態」という思い切った差別化戦略をとっている。収支予想を上回るピッチで月商売上を維持しているとの報告からビジネスモデルは成功しつつあると感じる。同様に、ポット苗を使った安心安全なお米の「うまさ」を売る異業種（スーパーの弁当）なども意識していると聞く。「おむすび屋たけはる」も地域ブランド米の発信源としての役目を背負う事業者の一つであると言っても過言ではない。

□夕暮市場（ユウグレマーケット）なども出店している。単価は少し高いがコンビニおにぎりとは比べようがないぐらい具沢山で、お米の甘みを感じられる美味しさであった。キッチンカー自体は整備済みで、5月からは阿南医療センター前で既に営業を開始している。補助事業で購入した設備によりSDGsの推進と事業の拡大を図って欲しい。

また、今後は阿南市産の食材を具材として今まで以上に取り入れ、レパートリーを増やしてほしいと考える。また、公民館の調理室等で子どもたちを対象とした料理教室（おむすびの握り方、出汁の取り方）の講師としての活躍も期待したい。さらに、売れ残りが発生した場合は近辺の児童クラブ等の子育て支援施設に無償で提供するなど食品ロス抑制にも取り組んでいて環境負荷の低減が図れている。

今後は那賀川産の無農薬のお米であることを更にPRし、販売促進に繋げてほしいと思う。

実績報告（本人評価・今後の抱負）

事業費	2,730,000円
（キッチンカーの冷蔵庫、日除け用オーニング、ソーラーパネル、ポータブル電源）	
補助対象	2,730,000円
補助金	910,000円 ＊実績額

【事業実績のまとめ】

- ・整備したキッチンカーで阿南医療センター前で営業している。また、徳島市のマルメン製麺所や阿南市の夕暮市場、活竹祭等のイベントにも積極的に出店している。（補助事業での効果）
- ・冷蔵庫、ネタケースの使用で食材の新鮮さが保て、長時間の販売が可能になった。
- ・オーニングの設置で日除け雨除けができ、来店者の利便性が向上した。
- ・ソーラーパネル、ポータブル電源で長時間エンジンを止めたまま、自然エネルギーを活用した営業が可能になった。
- ・食品ロスの解消に向けて売れ残ったおむすびは児童クラブに配布している。

【今後の展開】

- ・新たな販路拡大として、4月より自衛隊小松島基地で営業を始めた。
- ・繁忙の季節や時間帯を考慮しながら、人員体制も整えたい。
- ・売上増加のため、商品のラインアップの見極めや閑散期の販売計画、食品ロスの軽減に一層努力したい。
- ・まだ、袋での商品配布をしているが、有料化やスーパポットの持参を奨励していきたい。そのための割引制も考えている。



【総評】

海外でも”ONIGIRI”として注目を集める日本の「おにぎり」。次の五輪開催フランス・パリでも手軽で美味しくて安い三拍子揃った食べ物として大人気だそう。外国人にはヴィーガン（完全菜食主義）やグルテンフリーの方も多く、お米はヘルシーなイメージがある。日本でも東京ではおむすび専門店が増えてきた。

「たけはる」のキッチンカーは、そういったトレンドを先取りしたタイムリーな事業だといえる。さらに、ポット苗による大粒で食味の高いお米を使用し、炊き立てのご飯で地元の肉・魚・野菜などの具をその場で握る販売手法は、コンビニのおにぎりにはない新鮮な魅力がある。今回の事業で導入した地球環境に配慮した各設備の活用や、仕込み数で食品ロスに配慮しながらも売れ残りが生じた時には地元児童クラブの子どもたちに食べてもらう取組も大いに評価できる。またキッチンカーの機動性を生かして夕暮市場など各地のイベントにも出店して人気を博しているようである。今後、経営が安定すればアドバイザーから提案のあった「袋」の有料化やマイポット・容器持ち込みによるプラスチックゴミの削減、具材産地の表示による地産地消のPR等にも積極的に取り組んでいただきたい。また、災害時のキッチンカー活用の期待も高まっているので、阿南市でのキッチンカー普及に向けたモデルとして益々活躍してほしい。

Planetary Muffin

中村 雅子

オーガニック、フェアトレード、農薬不使用の原料をなるべく選択し、季節感を大切にしたいマフィン製造し、直営の実店舗でも販売を開始

第1回ヒアリング

8/8 10:00～ 阿南市役所501会議室



はじめに

岡山からサーフィンがしたくて移住。近所から頂いた、野菜・柑橘を無駄なく使えるようにジャム加工してみたのがお菓子作りのきっかけ

- ・マフィンは独特の製法でしっとりしている
- ・デザインの経験が強い（包装フィルムなど）
- ・阪神百貨店などに提供
- ・女性が働きやすい工夫
- ・1日600個（手作業）を自動包装で増やしたい

事業費 3,520,000円
（自動包装機械の購入、運搬、調整費など）
補助対象 3,520,000円
補助金 1,000,000円

関連SDGs

3・12)

安心で品質の高い製品提供、糖質制限など健康に配慮・HACCP

1・5・8・16)

柔軟な勤務形態、女性の登用、省人設備導入で効率化

3・7・10・11・12・16・17)

自動包装機で賞味期限延長、食品ロス削減、フェアトレードの原料、エネルギー節約

7・11・12・13)

再生紙の包装、資材の簡素化に努める有機肥料有機農法の拡大で農産物の付加価値を向上させる



主な質疑応答

□地元とのコラボは？

○加茂谷のイチゴを使ってみたい。

□地域貢献

○値段下げずにやっていきたい。

□移住者目線で阿南の良さは？

□包装フィルムのシールの材質は？

○綺麗に剥がれればゴミの分別ができる。

□SDGsにかかる質問の回答が明確ではなかったので、今後のフォローアップで確認したい。

□自社のマフィンの強み、オリジナルの価値はどこか？

○とてもしっとりしているところ。

□子育て中のお母さんの働き方で工夫しているところは？

□なぜ百貨店で販売できるまでになったのか？

○香川でマルシェに出店した時にバイヤーに声をかけてもらった。

□ぜひ、阿南を代表するお菓子、土産になってもらいたい。

□今日のヒアリングで話し合ったアイデア（特にSDGs/環境）を整理して、修正・追加できることは取り組んでください。12月に現地も見せていただいたり、進捗状況を聞いて再度フォローアップします。

現地ヒアリング

11/29 13:00～ 新工場・店舗（見能林町）

進捗状況

補助対象の自動包装機は導入済みで、本格稼働に向けて調整中。店舗・加工場の改装もほぼ終了している。

主な質疑応答

□包装機のメーカーは？

○国内で実績のあるFUJI製、包装フィルムは吉田商事から（県内産）を導入。

□包装ラップへの印字は？

○製品のロゴや賞味期限をシールに印刷。

□機械の調整は？

○当初はメーカーから来てもらったが、地元で機械に精通した人がいたので、そこに依頼している。

□効果は？

○大量に梱包できて、密閉度も高く賞味期限も伸ばせて満足している。

□イベントには何個ぐらい用意するのか？

○とくしまマルシェだと900～1,200個ぐらい。

□他にイベント出店は？

○阿南市の「夕暮市場」、勝浦町の「よってね市」などに時々出店している・・・
依頼があっても忙しくてなかなか参加できない。

□マフィンの種類は？

○キャラメルバナナ、ティラミス。抹茶大納言、アボガド、カフェモカ、洋梨ジャスミン、カボチャ、ブルーベリー、プリン、マンゴー、はっさくなど・・・

□地元農家との提携は？

○加茂谷のLEDいちご（竹内さん）など。

□包装でのSDGs取組は？

○店頭販売では蠟引きの紙を使う予定。おしゃれな紙袋なので再利用してくれたらありがたい。

□ここでマフィンを焼いているのか？

○10/10からここで焼いている。当初からこだわりのオープンを使用している。

□食材で工夫しているところは？

○種子島のさとうきび砂糖を使用。小麦粉もこだわっている



現地ヒアリングを終えての講評



□自動包装機の導入で効率化、働き方改革は進んだが、プラ容器の削減に引き続き取り組んでほしい。遠方の客には仕方がないが、地域の人はプラを使わない購入の仕組みが出来上がっていくのは素敵だし、阿南から広がっていくと良い。その意味で、蠟を使った耐久性のある持ち帰り袋のアイデアはすごくいいので、店頭販売でSDGsの意識が深まることを期待したい。

□コンセプトは「自然のもの（力）を大切に安心安全な食品を」。移転に伴い自動化を図り量産体制を構築するもので、既に百貨店で販売するほどの知名度があり、マルシェ等での人気も高く今回のビジネス展開は自然な成り行きで懸念は感じない。銀行からの融資も調達済み。

□9月の市役所での夕暮市場では長蛇の列ができ、500個のマフィンが早い段階で売り切れていた。食べてみると具沢山で生地がしっとりとして、とても美味しかった。今回の現地ヒアリングでこだわりのオープンや北海道産の小麦粉、種子島産のサトウキビの砂糖を使用していることが分かり、美味しさの秘密を垣間見た気がした。補助金で導入した自動包装機はまだ調整段階ではあったが、今後本格的な稼働により賞味期限の延長と大量生産が可能になるため、事業のさらなる拡大が期待できる。また、将来的には中庭等を活用した飲食の提供も予定しているとのこと、婚活イベント（阿南の食材を使用したマフィンと一緒に作って、グループトークしながら食べる）の会場としても利用できるのではないかとされる。

実績報告（本人評価・今後の抱負）

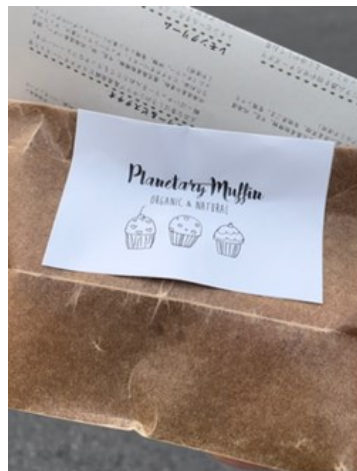
事業費	3,795,000円（自動包装機械の導入費）
補助対象	3,795,000円
補助金	1,000,000円 ＊実績額

【事業実績のまとめ】

- ・生産拠点をテナントへ移転するために工房兼店舗を改装。合わせて、自動包装機を導入した。
- ・調理作業のスペース拡大、自動包装機の導入により生産性が向上し、月間生産金額が倍増した。
- ・自ら店舗販売が可能となった。

【今後の展開】

- ・生産性が向上したので、百貨店の取引を拡充したい。
- ・実店舗販売の恒久化。
- ・店舗の広さを生かして、イベントを開催したい。
- ・ふるさと納税の返礼品にチャレンジしたい。
- ・阿南市でのイベントにも積極的に出店したい。
- ・正規雇用を1名採用予定。



【総評】

喫茶店だった店舗を改造して、明るい雰囲気製造場と対面販売用のカウンターなど、とてもデザイン的な工房と店舗が完成した。本事業で導入した自動包装機も本格的に稼働し、生産性が大きく向上して賞味期限も増したことで、主力の大手百貨店納入に余裕が生まれ、その分を要望が多いイベント出店や実店舗での販売にも力を注ぎたいとのこと。地元の果物や野菜を使った商品のラインアップも充実しており、砂糖や小麦など自然素材にこだわった材料の使用や蠟引きの丈夫な紙袋で再利用を促すなど、環境にやさしい取組を継続してほしい。今後はイベントで大行列ができる人気店の実店舗が、阿南市に新しいスタイルの風を呼び込んでくれることを期待したい。

有限会社 ウト・ワーク

木元 靖博

地産地消をコンセプトとしたカジュアルなイタリア料理店（トラットリア）を開業

第1回ヒアリング

8/7 13:30～阿南市役所501会議室



はじめに

現在のハンバーグ店（本店）では地元海産物等の使用頻度が少なく、イタリア料理なら地産地消ができると思ったから。

- ・地元食材を使った惣菜を販売するデリカエッセンを設ける
- ・若者雇用と人材の定着を目指す
- ・本店では羽ノ浦町の客が少なかったことも要因
- ・生産者とのつながりを大事にしたい
（生産者のPR、規格外使用など）
- ・ターゲットは40代女性
- ・客席は35席（本店75席）

事業費	30,000,000円 （家賃、内装工事、厨房設備、マーケティング、諸経費）
補助対象	11,330,000円（厨房、家賃、コンサル料）
補助金	1,000,000円

関連SDGs

13) つくる責任使う責任 フードロス

（惣菜の量り売り、規格外野菜の使用、紙の容器、ストロー使用）

14) 海の豊かさを守る（地元の海産物使用で漁業者を守る）

8) 働きがいも経済成長も（従業員の所得向上）



主な質疑応答

□活用する阿南の海産物はどのようなものを考えているのか？

○竹内水産のシラスをパスタにしたり、伊勢海老や鮑。タカラ食品と提携して、ひじきの加工品も考えている。他にプロジェクションマッピングで地域の食材を視覚的に紹介する方法も検討中。

□観光客に高付加価値で提供する戦略は？

○尊敬する燕三条市のtsubamesanjo Bitを習って世界に発信したい。

□農家や漁師からは高価で買ってあげてほしい。それらをコーディネートできる組織を生産者が共同出資で作ると効率的になる。

□新テナントだが同時出店するのは？

○おさかな樋口さんなので、仕入れ等で相乗効果を出したいと考えている。

□国の事業再構築補助金採択はいつか？

○認定支援機関は阿南信金で採択は9月の予定。

□客の回転数はいくらで売上を予想しているか？

○昼は2回、夜は1.5回と見込んでいる。

□既に自走して実績をあげている企業、自身も中小企業119の専門家として登録しており、飲食店の指標から導く経営計画や原価などの管理会計を指導している。

□地域の維持発展を強く意識したビジネスモデルであり、地域のリーダーとして更なる活躍を期待したい。

□デリカエッセンはテイクアウトも可能なのか？

○可能です。デパ地下をイメージしたお洒落な惣菜を提供していきたい。

□開店はいつか？

○テナント建設開発許可の関係で遅れており、年明けと考えている。

□今日のヒアリングで話し合ったアイデア（特にSDGs/環境）を整理して、修正・追加できる場所は取り組んでください。12月に現地も見せていただいたり、進捗状況を聞いて再度フォローアップします。

現地ヒアリング 12/1 10:00～新店舗（羽ノ浦町）

進捗状況

テナント工事が大幅に遅れた影響で厨房・内装工事に着手できなかったが、目処がついたので工事を開始。2月中にはプレオープンして3/15にグランドオープン予定。店名は「ウト・ワークのイタリアン食堂816」

主な質疑応答

□家賃はいつから？

○実際に稼働する2月から。

□補助対象の厨房設備はいつ搬入設置するのか？

○ホシザキに発注中で、1月中には設置できる。

□事業再構築補助金は？

○採択済みです。

□道路沿いに看板は？

○お魚ひぐち、とり笑、ウト・ワーク合同で設置予定。

□新店舗の雇用は？

○まだ最終の目処は立っていないが、本店から2名。オープンから半年は私が先頭になって業務を行う。

□メニューは？

○パスタ・ピザ・ハンバーグの3本柱。ウニやイカ墨、もち麦（牟岐町）などで魅力あるものを考えている。オープン料理、ピザ釜も設置する。（グラタンもいいかもかもしれない）

□地元農家との連携は？

○これまでのつながりがあるのでいろんな食材が調達できる。

□ロケーションや外観の特色はないが？

○なので、店内仕様でイタリアンらしい雰囲気を作りたい。

□店内の配置計画は？

○入口に惣菜コーナーで背後の棚に器やカトラリー。自然の突き板を使ったカウンター8席。テーブル席が8セット。

□ターゲットは？

○30～40代の女性。昼のランチから非日常感が感じられる夜のディナーへ誘導したい。

□価格設定は？

○昼と夜で差をつける方法も思案中。夜は多様なワインを楽しんでもらう。



現地ヒアリングを終えての講評



□当初の予定より事業の進捗が遅れている点が気にはなるが、既存店舗での営業経験を活かし、一つ一つ問題を解決している感があり、2月のプレオープンに向けて順調に進んでいると感じる。阿南市では珍しいイタリア料理店で地元の食材をふんだんに使用した料理やお惣菜を提供することにより、地産地消の推進や特産品の価値向上による地域ブランドの構築に寄与するのではないかと考える。

また、婚活イベント（阿南の食材を使用した珍しいイタリア料理を一緒に作って、グループトークしながら食べる）の会場としても利用できるのではないと思われる。

□ウトワークの知名度と羽ノ浦町と言う立地から、集客は見込めると思います。また、プラスチックごみの発生を抑制するため、紙製品を使用するなど環境に配慮した取り組みも良いかと思えます。新店舗でのスタッフの雇用に関しては、早い段階で決定した方がいいのではないかと感じました。

□阿南を感じられる食材と店内の雰囲気、調度品などをテナントの空間でどう表現できるかが肝要。惣菜コーナーも含めてフードロス対策もしっかりと行って、新たな店舗の付加価値を高めてほしい。

□今回の店舗周辺はホームセンターやスーパーマーケットが連たんするエリアの一角である。狙うターゲット顧客層（30代～50代女性）とは馴染まない感があるが、そこは戦略的にプラスに変換し、昼と夜で別の客層を狙う仕組み（サービスやメニュー）を構築するなどの面白味が出てこよう。既に代表者においては、昼と夜の切り替え時にはいったん店舗を閉める、また席の開店数を調整するなどの戦術を考えており、柔軟な対応で課題を解決しようとする意図が垣間見える。経営力のポテンシャルが伺える。尚、国の事業再構築補助金は採択済みである。

実績報告（本人評価・今後の抱負）

事業費 30,000,000円
（店舗建物建設費、内装工事、厨房機器、エアコン設置、マーケティング、運転資金等）
補助対象 3,300,000円(エアコン設置、マーケティング調査及び戦略計画)
補助金 1,000,000円 ＊実績額

【事業実績のまとめ】

- ・地域初の地産地消をコンセプトにしたカジュアルなイタリア料理店（トラットリア）をオープンするにあたり、マーケティング調査（想定顧客・競合店等）を行った。
- ・マーケティング調査は企業基礎調査、経営環境調査分析（SWOT分析）、事業戦略（クロスSWOT分析）
- ・本事業では設備工事の一部として、店舗用エアコンを2基設置した。（2/5変更申請済）
- ・2月に新店舗をオープンした。
- ・ランチ、ディナー、デリカの部門で売上目標を設定。
- ・地域内経済循環を図るため、地元の農産物や水産物を積極的に仕入れ、メニューに取り入れている。食材の仕入れの過半を地域内から調達する予定。



【総評】

新店舗は開放的で楽しい雰囲気に仕上がった。椿泊の「飛ベシラス」や「足赤海老」、新野町の「しいたけ侍」、羽ノ浦町の「におメンマ」、長生町の「たむらのタマゴ」など、各地の特色ある食材を取り入れたメニューが並び、地産地消のコンセプトはしっかりと実現できている。空調設備は店内と厨房にもスポット吹き出し口があり、調理する従業員の労働環境にも配慮した設備となっている。手軽にイタリアン料理が楽しめ、昼は家族連れ、夜はワインを飲みながら語らう場として、食を通じた新たな空間が生まれた。今後さらに、地元食材を使った料理の開発、食品ロスやプラスチック容器の軽減に取り組んでいただきたい。

④まとめ

今回、検討委員会等を経て採択された事業は、先端技術、地域資源活用、食品製造・販売、飲食などそれぞれの新しい分野でのチャレンジであり、掲げた SDGs や ESG 経営の理念が着実に進捗するよう、阿南市ふるさと未来課と大正大学地域構想研究所阿南支局及び2名のアドバイザーが連携して伴走型のフォローアップを実施。

個別フォローアップの具体的な内容及び経過は本報告書に前述したが、ヒアリングでは、各事業者の環境保全や地域貢献に対する意欲、抱える課題や不安などを聞き取りながら、アドバイザーとともに SDGs や ESG 経営の先進事例や資金計画等についての助言や意見交換を行うとともに、必要に応じて個別相談や進捗状況の確認を行った。

その結果、5つの事業がいずれも期限内に完結し、概ね順調に事業を開始した。補助制度の見直しで、事業継続が確認できれば次年度にも補助金が交付される。フォローアップのそれぞれの総評で紹介したように、5つの事業とも阿南市が目指す地域循環共生圏の推進モデルとして着実に継続するように見守るとともに、このような取組に触発されて新しいチャレンジに挑む事業者が増加することを期待したい。

6. まとめ（全体）

▷関係人口を核としたシティプロモーションの推進

昨年の市内就労者アンケート調査で見えてきた「阿南とつながる情報発信」の必要性からWEBサイト「阿南人」を本格的にスタート。その成果は本文で述べたが、SNSの拡散力は想定以上で、プロモーションツールとして大きな効果があることが実証された。今後は、県外に進学・就職した若者と「阿南人」をつなげるための県外在住プロモーターの養成を目標の一つに加え、東京や関西ふるさと会や各高校の同窓会と連携し、WEBサイト発信を継続しながら実践的な調査研究を進めていきたい。

▷若者の人材育成とU I Jターン促進に向けた情報発信について

昨年に続き、高校生自らがイベントに参画する活動をサポートしたが、特筆すべきは高校生同士の継続的な交流が生まれたことで、ジャーナリスト体験会を経て高校生プロモーター誕生につながった。支局に集う高校生を見ていると、高校生アンケートのテーマ「地域体験学習」の窓口としてのプラットフォームが出来つつある。アンケートの分析結果でクローズアップされた体験学習と高校生をつなぐ役割を支局が担えるかもしれない。また、大きな志を持って東京に進学する高校生との出会いもあり、東京・阿南ふるさと会の若者ネットワークづくりにもチャレンジしてみたい。

▷SDGsの推進について

生物多様性の観察、海岸清掃活動やSDGsパンフレットの取材等を通じて、SDGsに対する意識がかなり浸透してきたことを感じる。そんな中、今回のSDGsセミナーでは脱炭素に向けて不可欠なESG経営とDXについて企業と連携する最前線の話聞くことができた。令和5年5月、2025年までの実践に向けた阿南市版・脱炭素ロードマップが示されたこともあり、SDGsに対する市民意識の高まりを背景に事務事業及び区域施策編とも具体的な取組に向けて新たな施策が望まれる。

▷地域循環共生圏の推進について

補助制度の見直しを受けて、事業の継続性に留意してアドバイザーとともにSDGsやESG経営の理念や資金計画等を確認しながら助言を行い報告書にまとめた。

▷終わりに

それぞれのテーマとも一定の成果を収めることができ、今後の効果的な施策目標の設定に繋げることができたと考える。本年度の調査研究事業にご指導ご協力いただいた全ての関係者の皆様に感謝を申し上げ、本報告書のまとめとする。

2023（令和5）年度 地方創生・地域の活性化に関する研究 成果報告書

発行：2024（令和6）年3月

制作：大正大学